

地盤工事

砂利・割ぐり・捨てコンクリート地盤

Table with columns: 地盤名, 仕上り厚さ, 施工範囲, 備考. Rows include 砂利地盤, 割ぐり地盤, 捨てコンクリート地盤.

o 捨てコンクリートの設計基準強度は 135N/d とする。
o 直接基礎部分の地耐力(長期) (50 t/m)

既製コンクリートぐい地盤・掘ぐい地盤

Table with columns: ぐい種別, ぐい径・サイズ, ぐい先端位置, 耐力(長期)/t/m, 備考.

o ぐいの掘削工法 ()
o 試験ぐいのぐい径は () とする。
o ぐいの掘削方法及びぐいの補強方法は () に示す。
o ぐいの先端位置は 掘ぐい平たん形を標準とする。

場所打ちコンクリートぐい地盤・場所打ち鉄筋コンクリート地中壁地盤

Table with columns: ぐい寸法・形状, 掘削深さ, 耐力(長期)/t/m, 備考.

o 工法 (深礎工法)
o 施工に際しては 原則として施工管理技術者をおかなければならない。
o コンクリート (種類, 強度, 設計基準強度 210 N/d, 最小セメント量, 所要スランプ)
o 鉄筋コンクリート用材料の品質 (注筋 SD35, 帯筋 SD30, 力骨 SS41)
o ぐいの掘削・掘削との場合は (掘 - 7) に示す。

施工試験

o 掘削試験 (掘削試験)
o 地盤の軟弱試験 (掘削試験)
o 掘削試験計画書を提出し、監督員の承認を受けること。

鉄筋コンクリート工事

コンクリート

Table with columns: 種類, 使用区分, 設計基準強度, 所要スランプ, 所要空気量, レミタクトコンクリート, 備考.

o コンクリート番号 (1, 2) は 該当使用区分での化ibel放しコンクリートにも適用する。
o 添付材料
o コンクリート番号 (2) には 流動化剤を使用する。
o 縮防材の含有率

鉄筋 JIS規格品とする。

Table with columns: 呼び名, 品質, 継手工法, 備考.

Table with columns: 材料試験, 試験範囲(呼び名), 試験片本数, 回数, 備考.

(注-1) 100tを超える使用するものについては 100t毎に試験を行う。
(注-2) 田舎試験は JIS Z 3881 による2種有資格者以上による田舎試験とする。
(注-3) 試験要領は 追加仕様書「鉄筋試験要領書」による(掘 - 19)。
o ガス田舎試験は JIS Z 3881 による (1・2) 種 有資格者とする。
o 田舎試験の技量検定付加試験 (掘)
o 鉄筋の加工寸法・形状・かぶり厚さ及び鉄筋の継手位置・継手の重なり長さ、定置長さは「標準仕様書(掘)」に示す。

型枠

o コンクリート打ち型枠 (A・B・C)
o 化ibel放し面の型枠 (化ibel放しコンクリート (A・B))

コンクリート打設に際し、その品質及び施工の管理のため、主任技術者は必ず立ち会い管理しなければならない。

鉄骨工事

鋼材 JIS規格品とする。

Table with columns: 品質, 使用鋼材の名称, 備考.

Table with columns: 種類, 備考.

Table with columns: 品質, 使用サイズ, 備考.

Table with columns: 名称, セットの種類, ボルトの機械的性質, 使用サイズ, 備考.

o 高力ボルトの製品検査は JIS B 1186 の規定により行う。
o 高力ボルトの製品検査は 現場での施工条件に適合する試験片で行う。

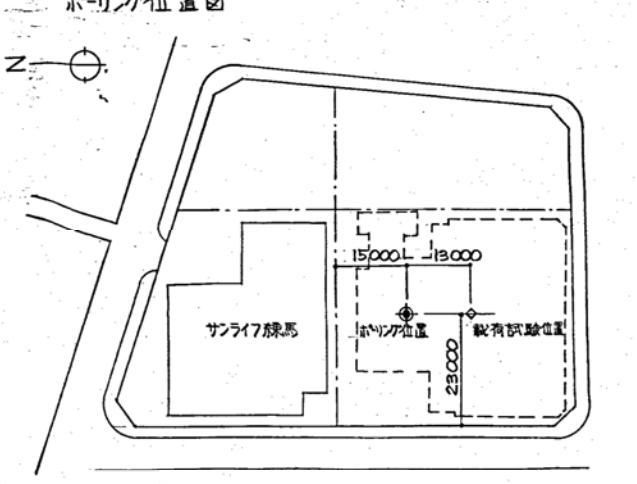
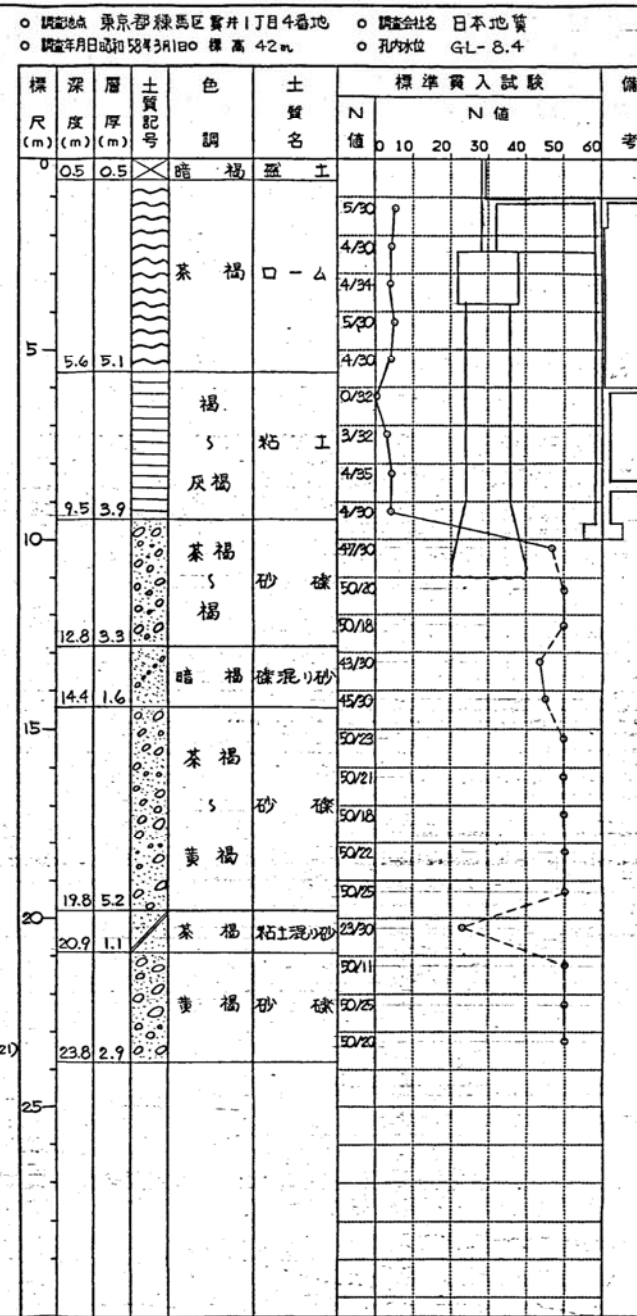
溶接工の技量検定付加試験
o 技量検定付加試験 (掘)
o 試験要領は (掘)

Table with columns: 種類, 試験片材の品質, 試験材の数, 備考.

防錆塗装
o 防錆塗装 (有・無)
o 防錆塗装は 工場塗装とし、塗装箇所 (掘)、鋼止め塗装は JIS K (5621)
o 高力ボルト接合部及び鋼骨部材の防錆塗装は 上記と同様の性能となるよう施工のこと。

溶接部の検査
I o 標準仕様書 (掘)
II o 標準仕様書 (掘)
III o 標準仕様書 (掘)

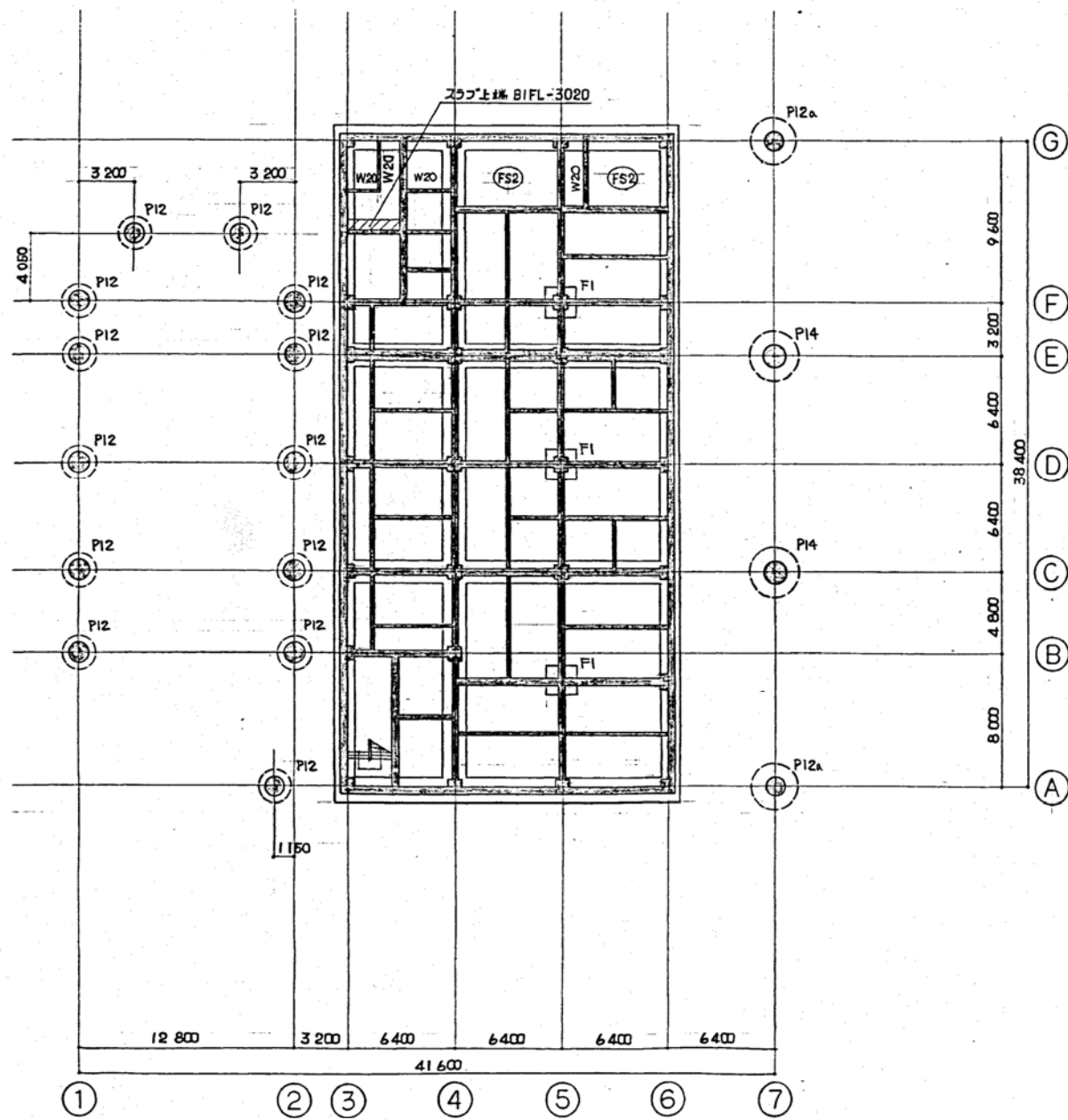
土質柱状図



本特記仕様は 標準仕様書における特記事項であり、各章の一般的な規定に優先する。

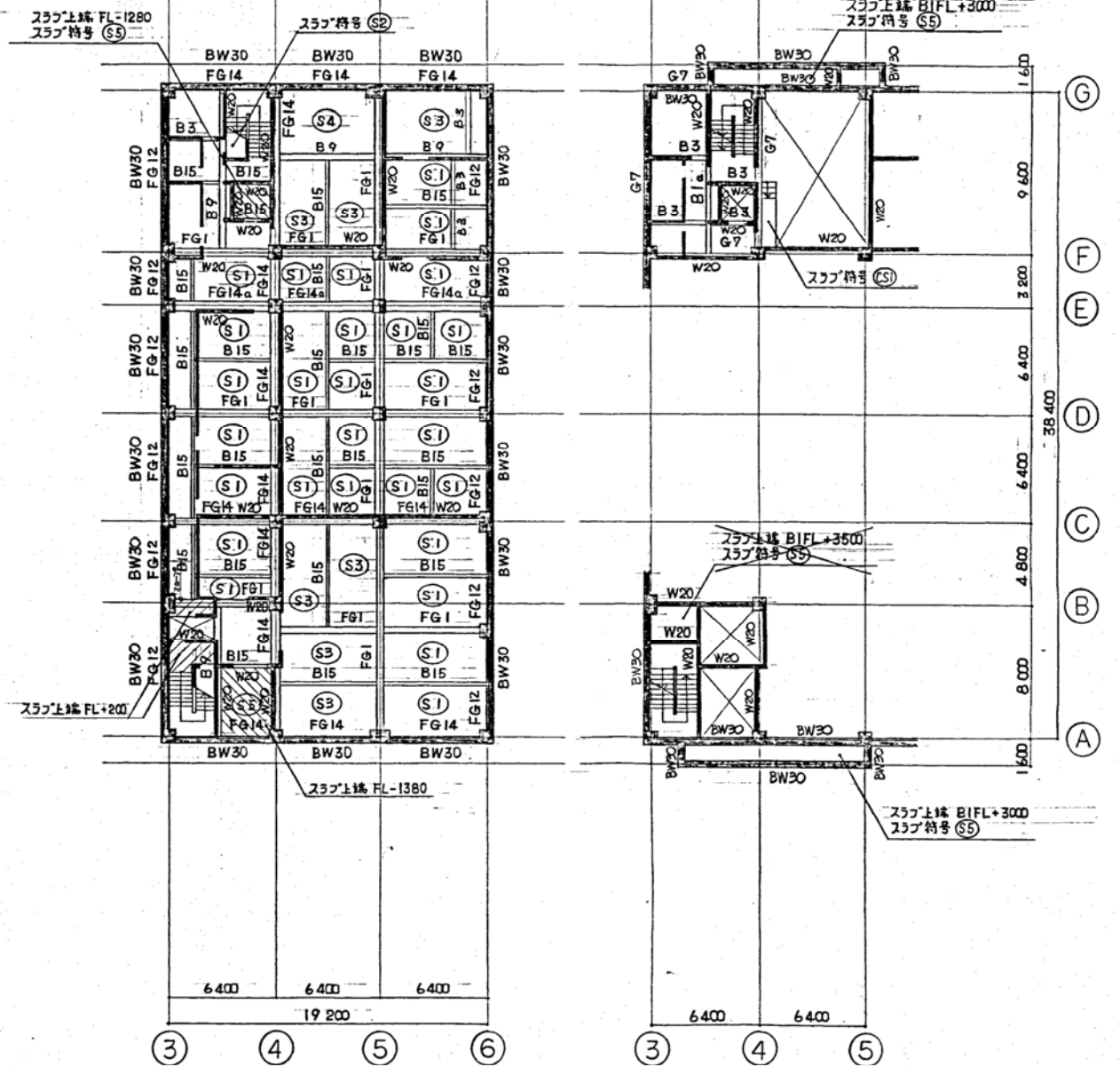
基礎スラブ・杭伏図

- 特記を以て下記による。
 1. 基礎スラブ符号 (FS)
 2. 杭天端 GL-2720
 3. スラブ下端 BIFL-2970
 4. 布基礎 (FG12, FG14), 基礎 (F1) 下端 BIFL-4020



BI・MBI 階床梁伏図

- 特記を以て下記による。
 1. スラブ符号 (S)
 2. 壁符号 W15
 3. 床スラブ上端 FL-20



(BI階床梁伏図)

(MBI階床梁伏図)

図工	58.12.14
校工	60.3.30

日建設計

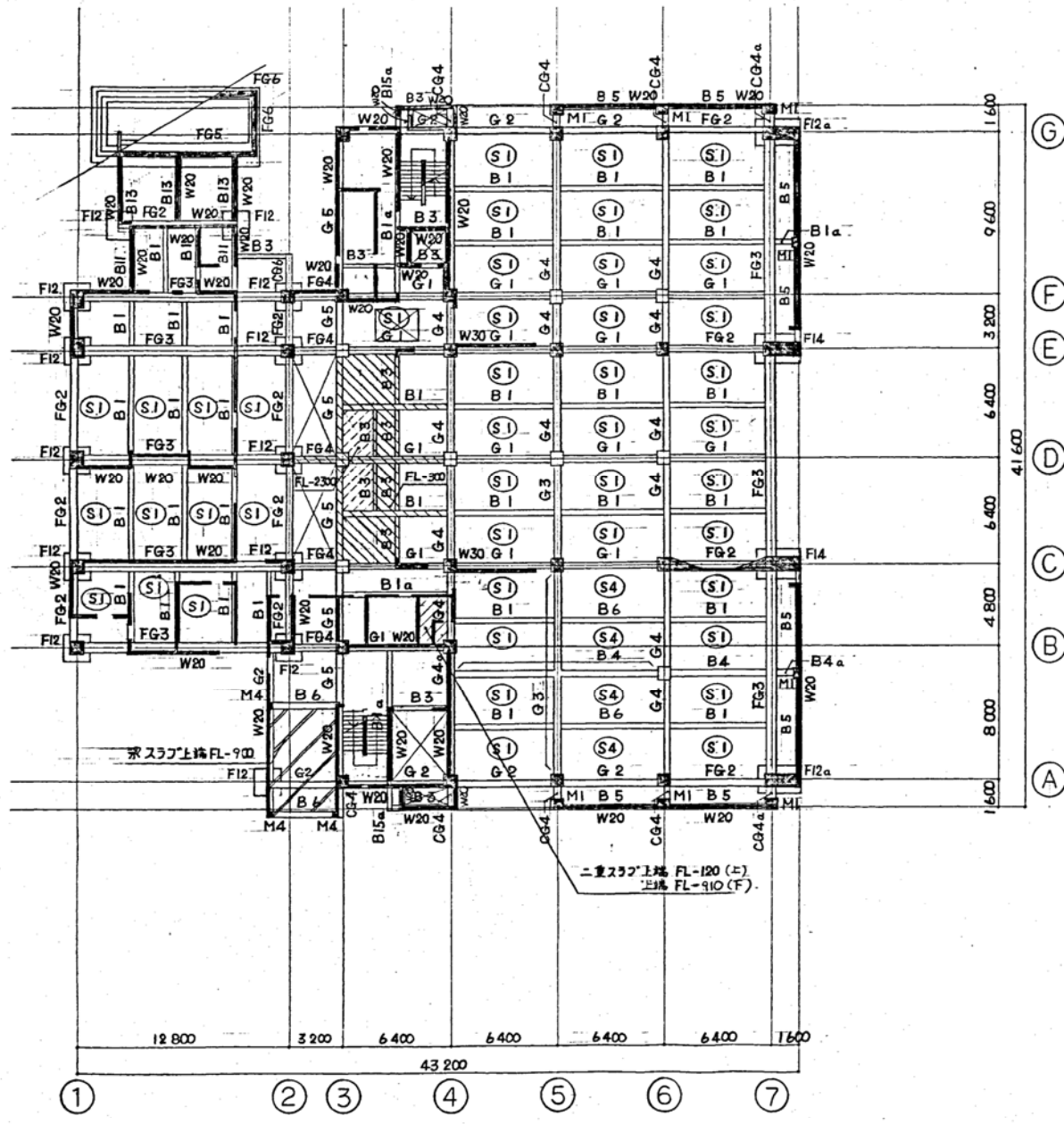
大阪府緑島区立美術館・貸付図書館新築工事

構 21-2

基礎スラブ・杭, BI・MBI階床梁伏図 1/20 No. T-570332-

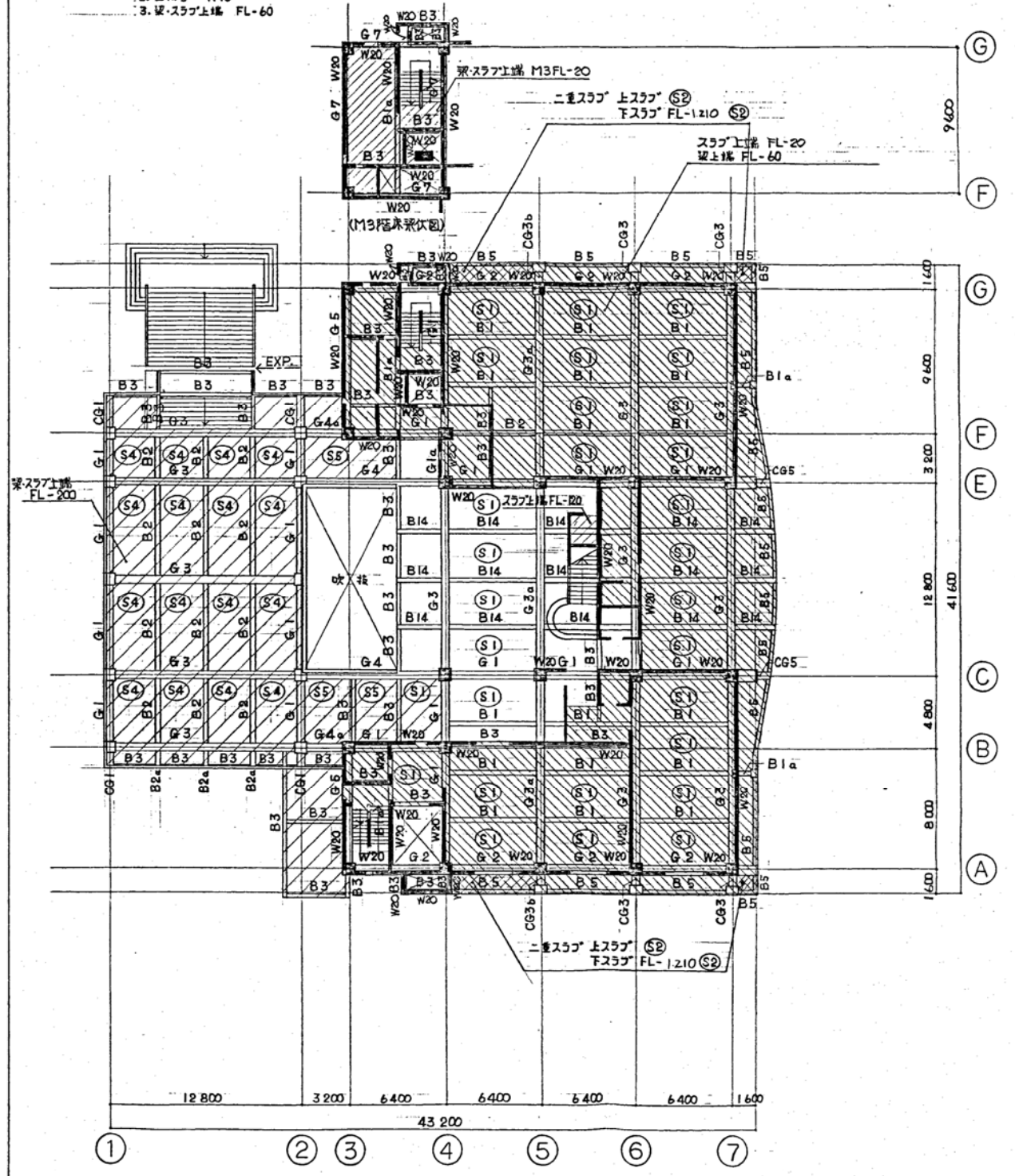
1階床梁伏図

- 詳細は配管下記による。
 1. スラフ符号 (S)
 2. 壁符号 W15
 3. 梁スラブ上端 FL-20
 4. 基礎下地 (F12, F12a, F14) FL-2B20
 5. 布基礎下地 (FG5, FG6) FL-1020



2階床梁伏図

- 詳細は配管下記による。
 1. スラフ符号 (S2)
 2. 壁符号 W15
 3. 梁スラブ上端 FL-60



58.12.16
 60.3.30

日建設計

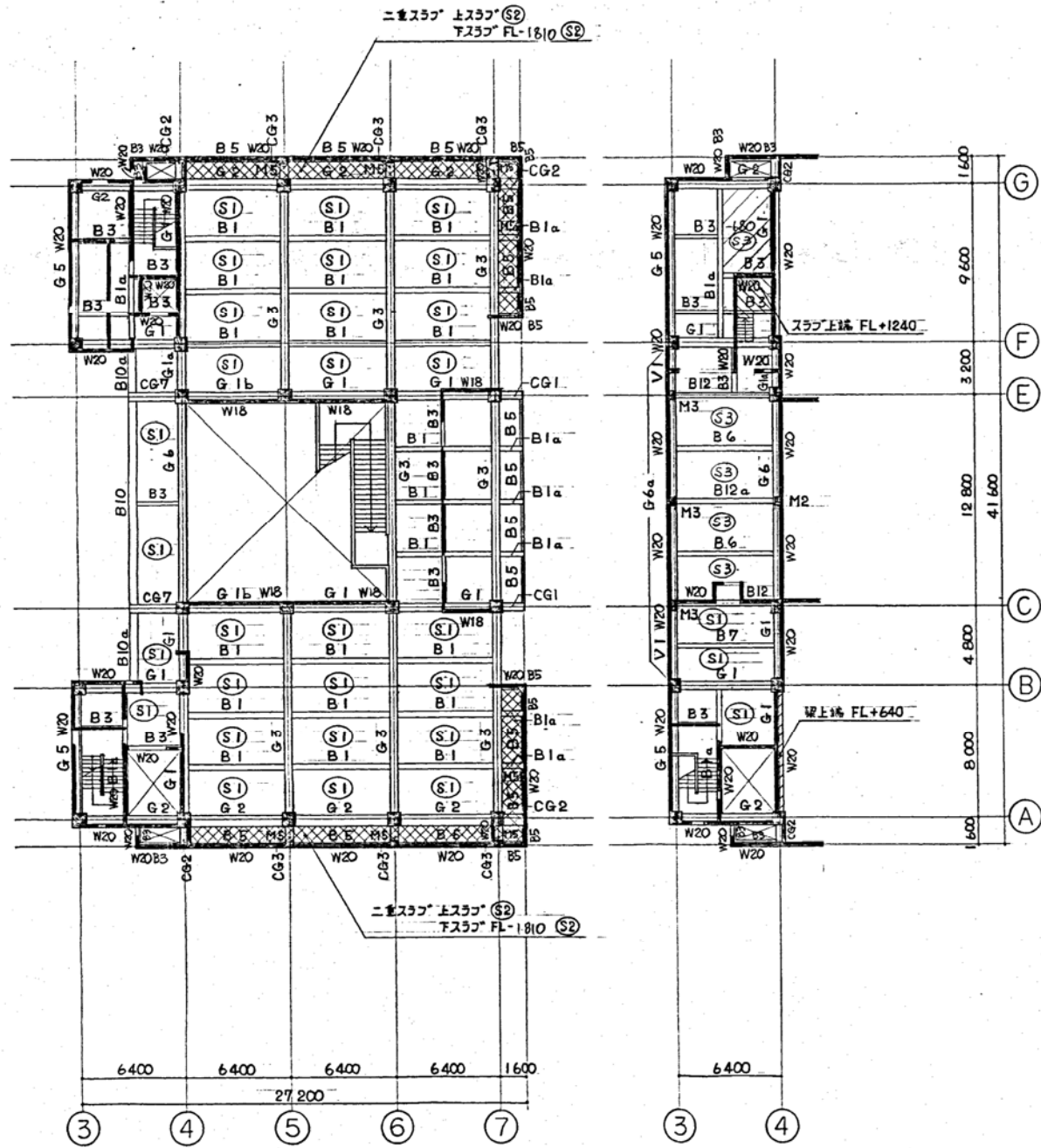
福岡県馬場区立美術館・資井図書館新築工事

構 21-3

1階, 2階床梁伏図 1/200 No. T-570332-

3. PR階床梁伏図

- 特記の部は下記による。
 1. スラフ符号 (S)
 2. 型符号 W15
 3. 梁スラブ上端 FL-20

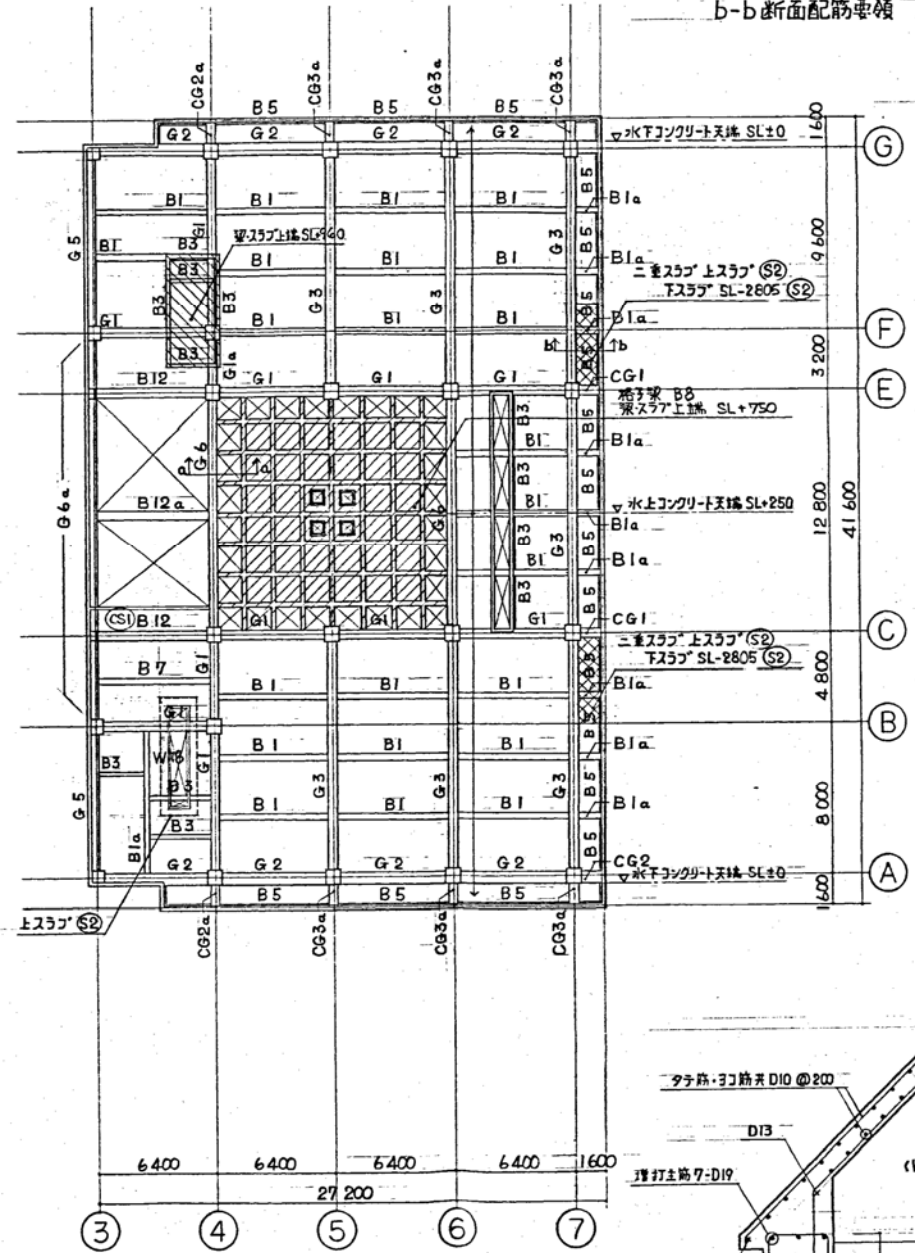


(3階床梁伏図)

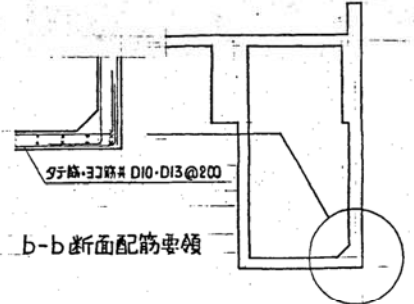
(PR階床梁伏図)

R階床梁伏図

- 特記の部は下記による。
 1. スラフ符号 (S)
 2. 型符号 W15
 3. 梁上端 SL±0



Q-Q断面配筋要領

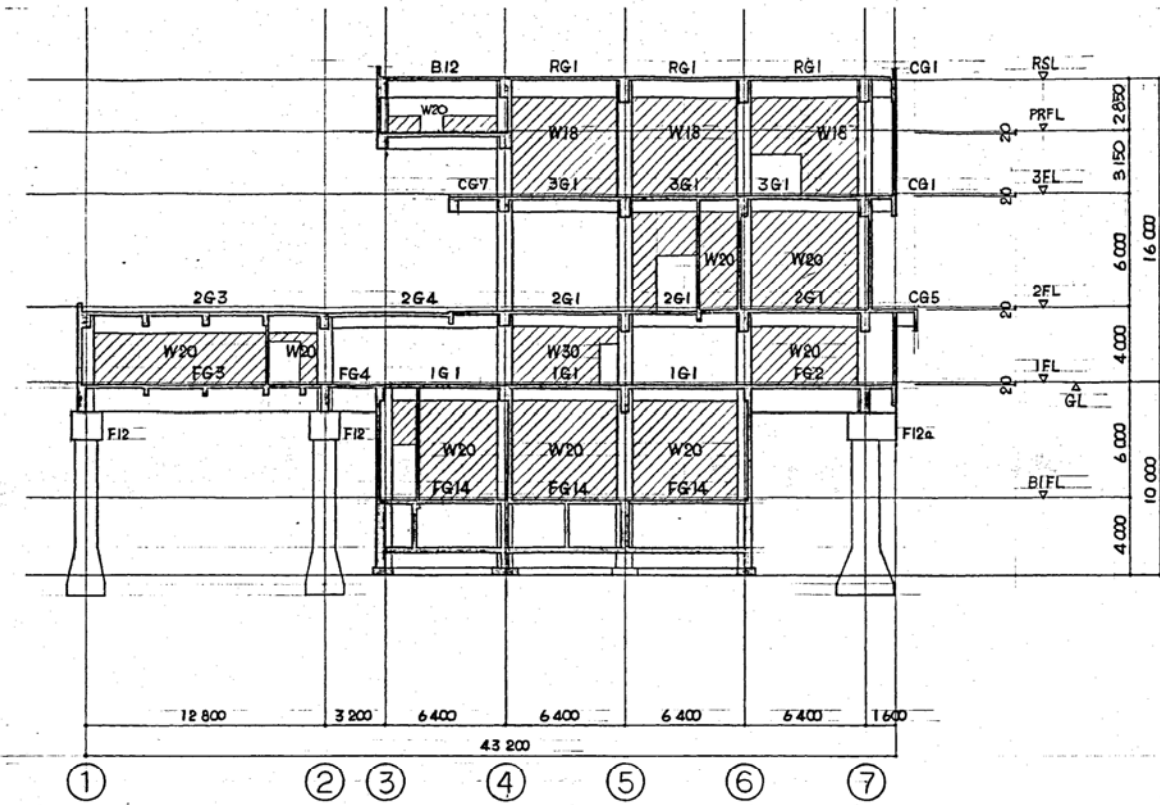


竣工	58.12.16
竣工	60.3.30

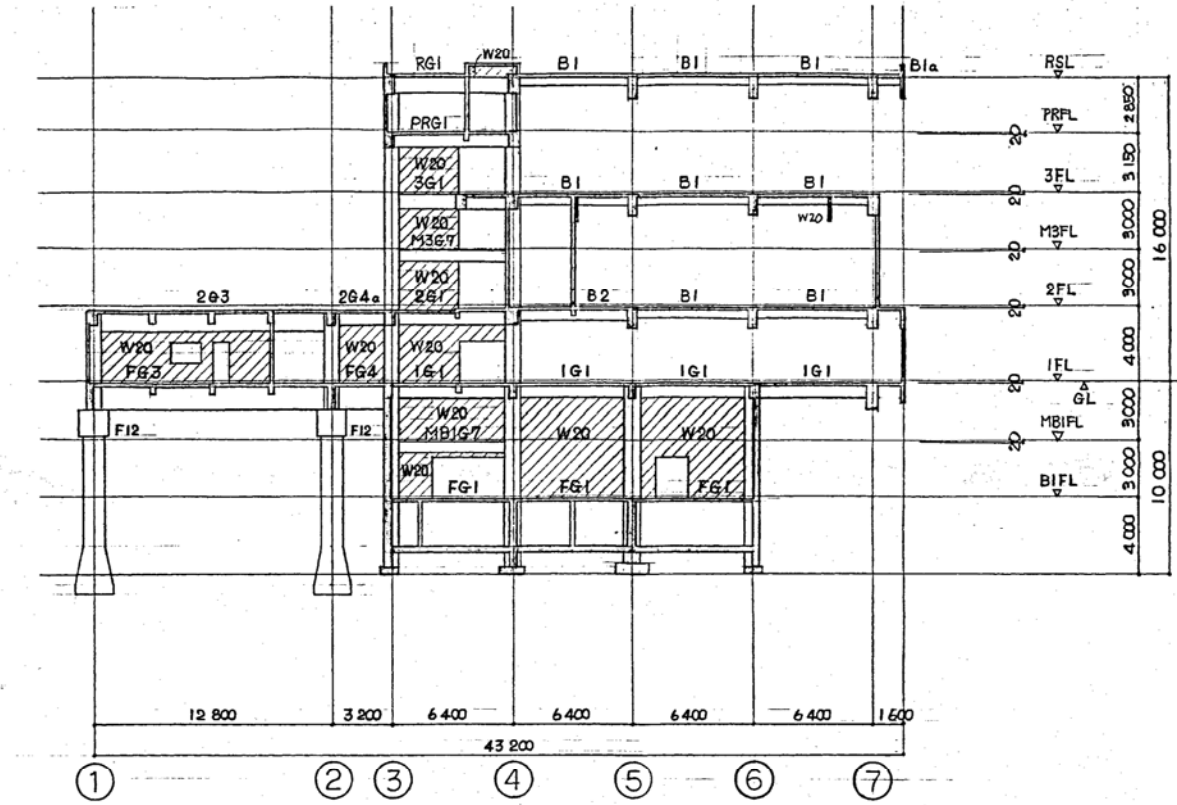
日建設計

（仮称）練馬区立美術館・資料図書館新築工事 構 21-4
 No. T-570332-
 3・PR, R階床梁伏図 1/200

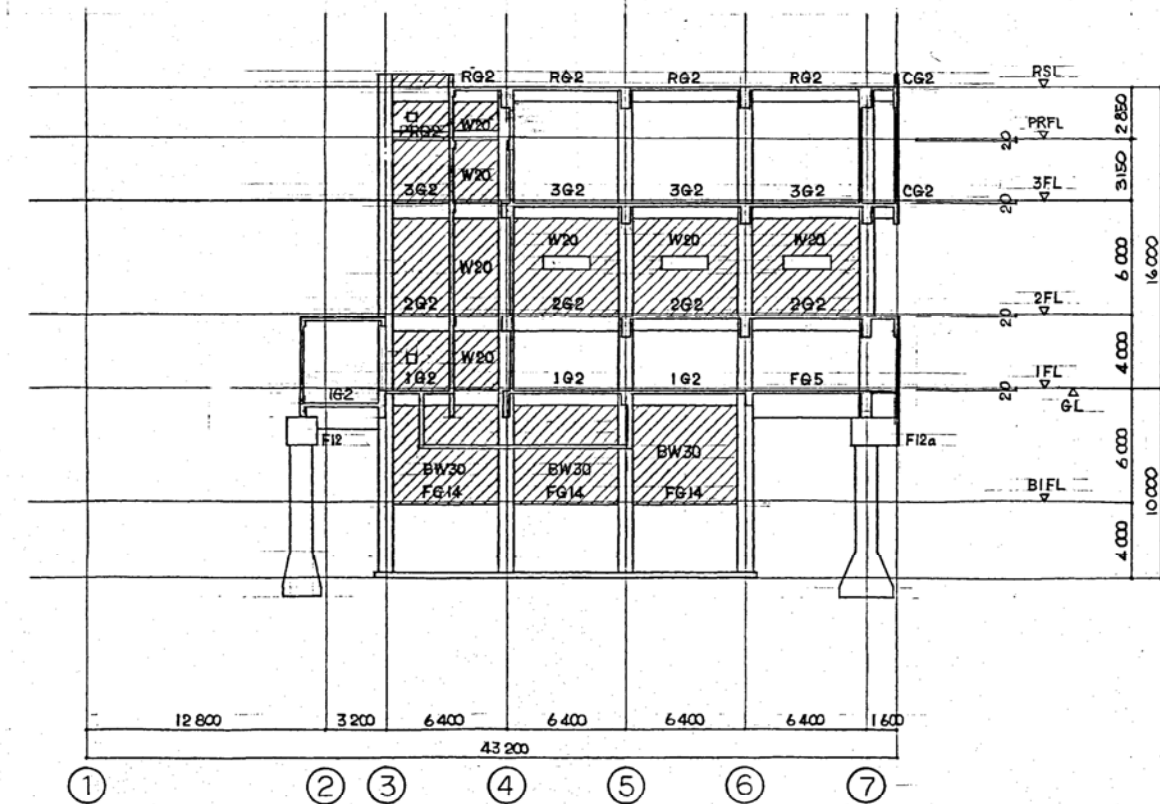
C 通り軸組図



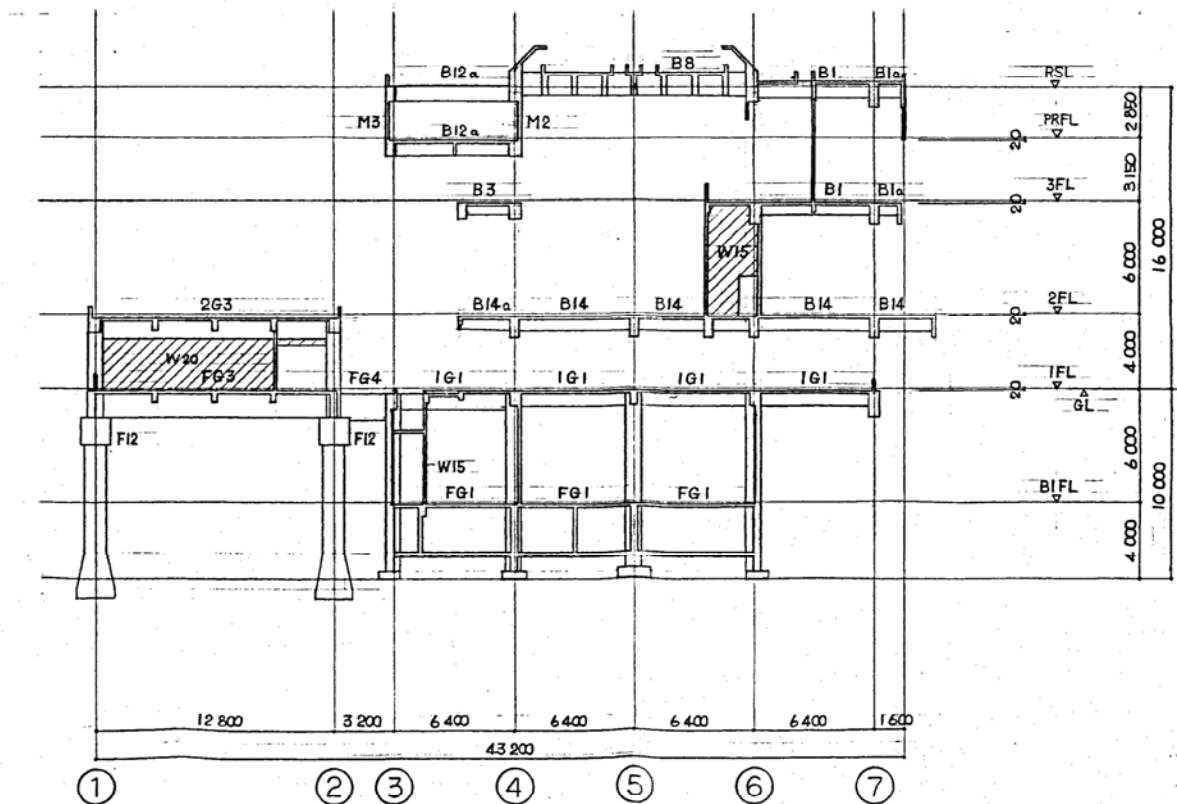
F 通り軸組図



A 通り軸組図



D 通り軸組図

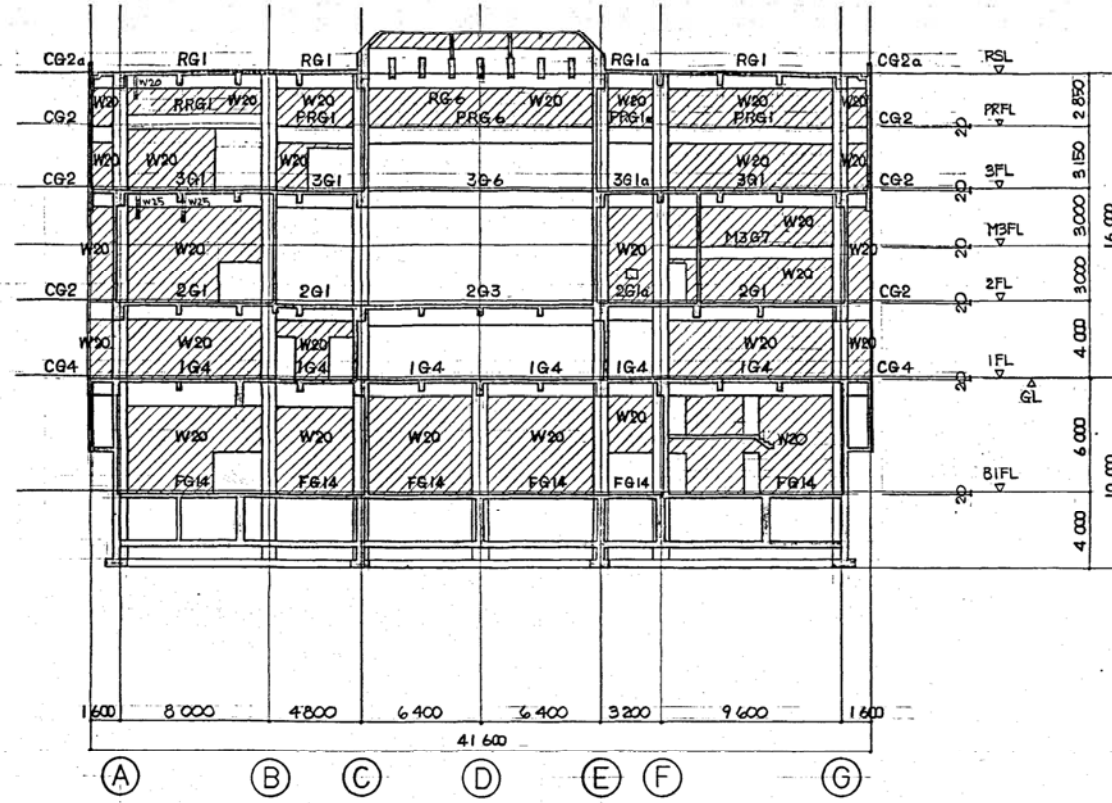


竣工	19.12.16
竣工	19.3.30

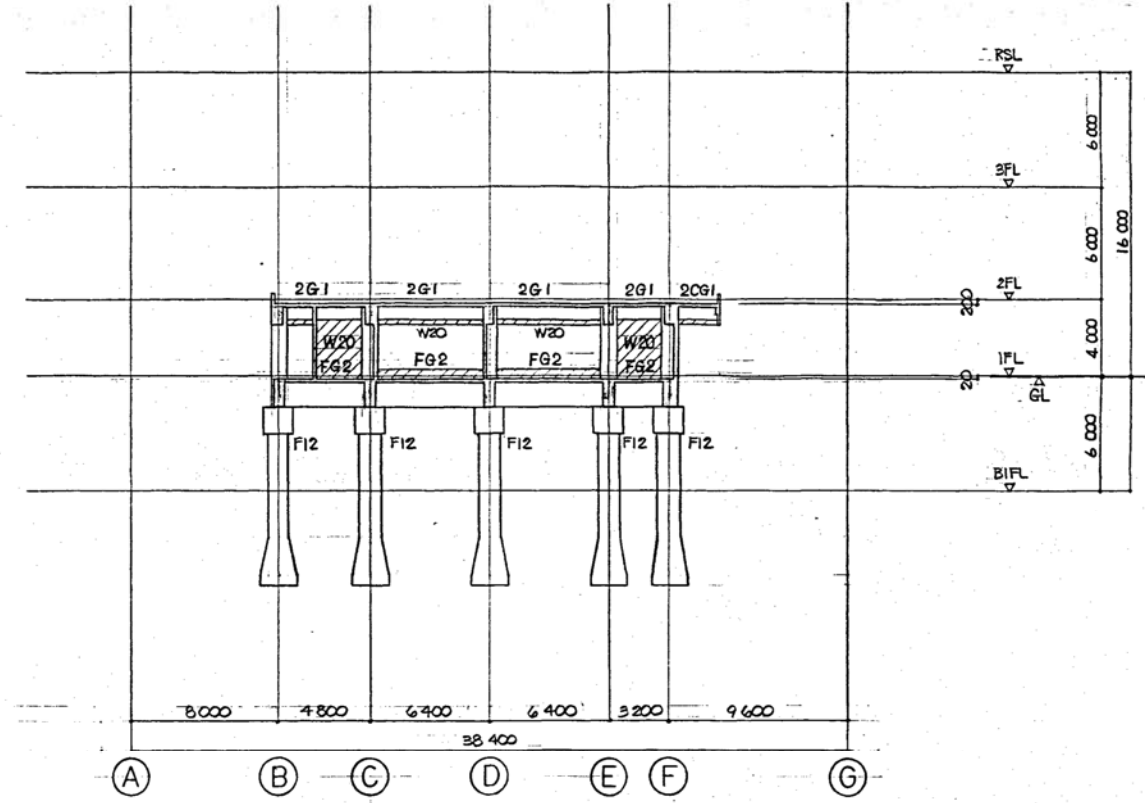
日建設計

（仮称）練馬区立美術館・貫井図書館新築工事 21-5
A・C・D・F 通り軸組図 1/200 No. T-570332-

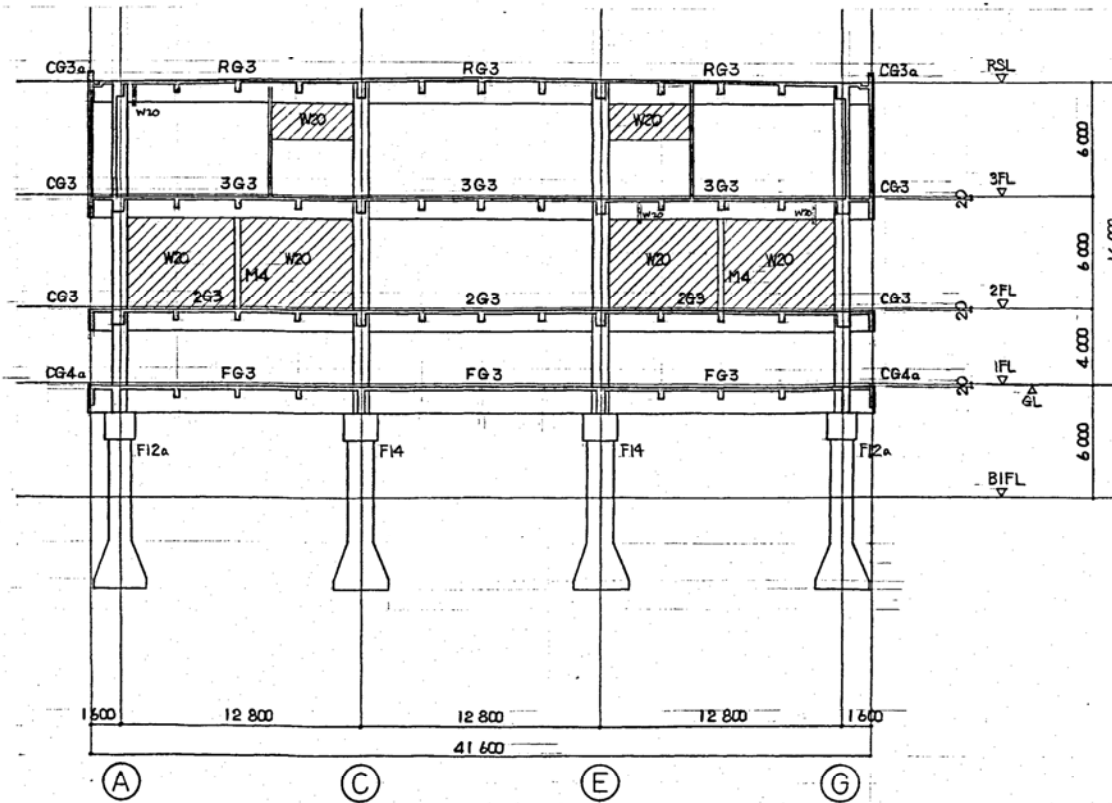
4通り軸組図



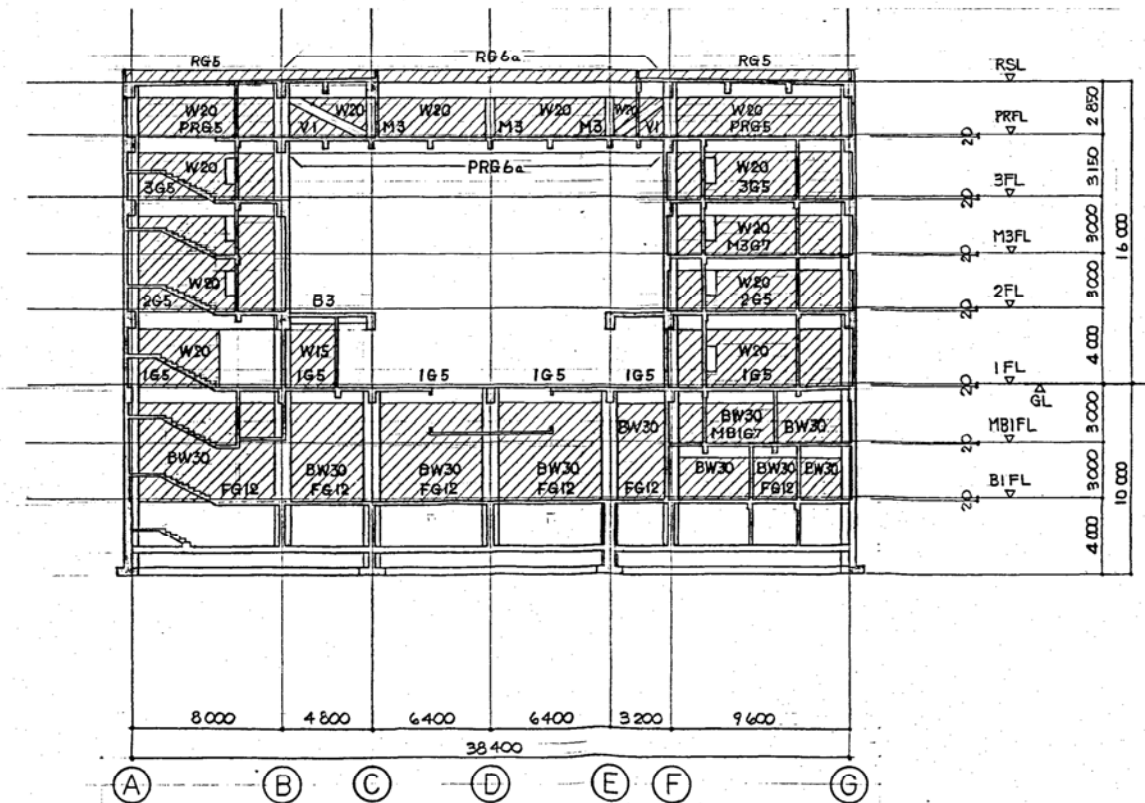
1通り軸組図



7通り軸組図



3通り軸組図



日付	58.12.16
修正	60.3.30

日建設計

（株）練馬区立美術館・貫井図書館新築工事

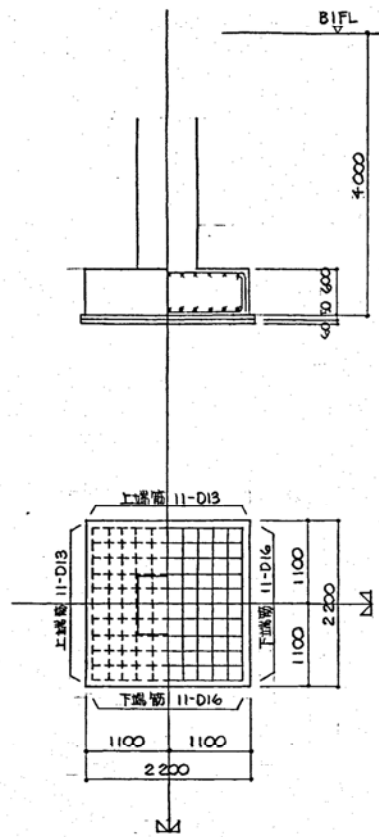
構 21-6

7.4.3.1通り軸組図 1/200

No. T-570332-

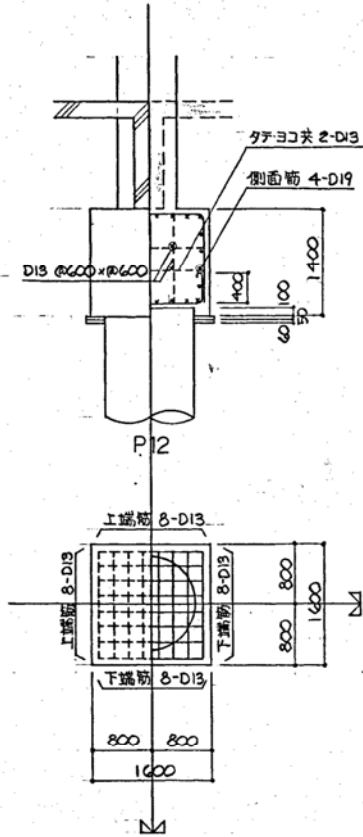
基礎断面表 1/50

F1

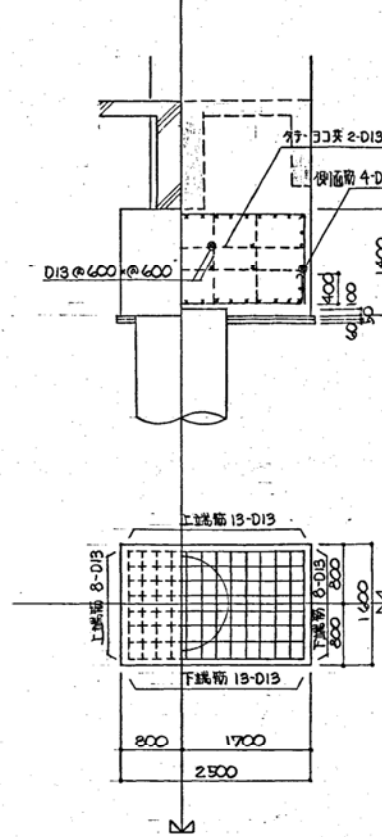


杭断面表

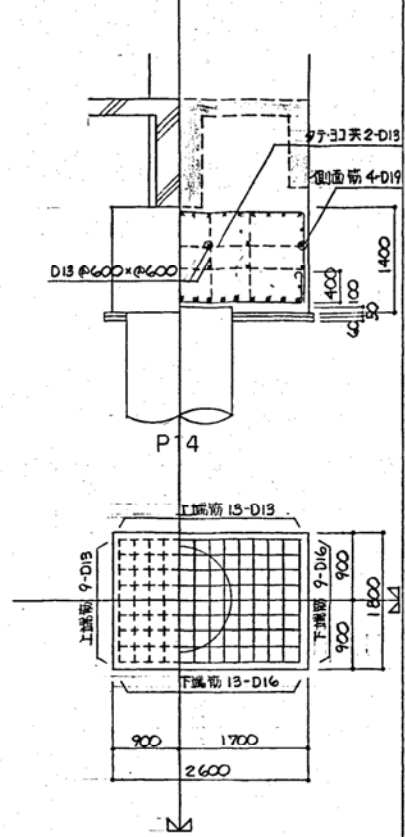
F12



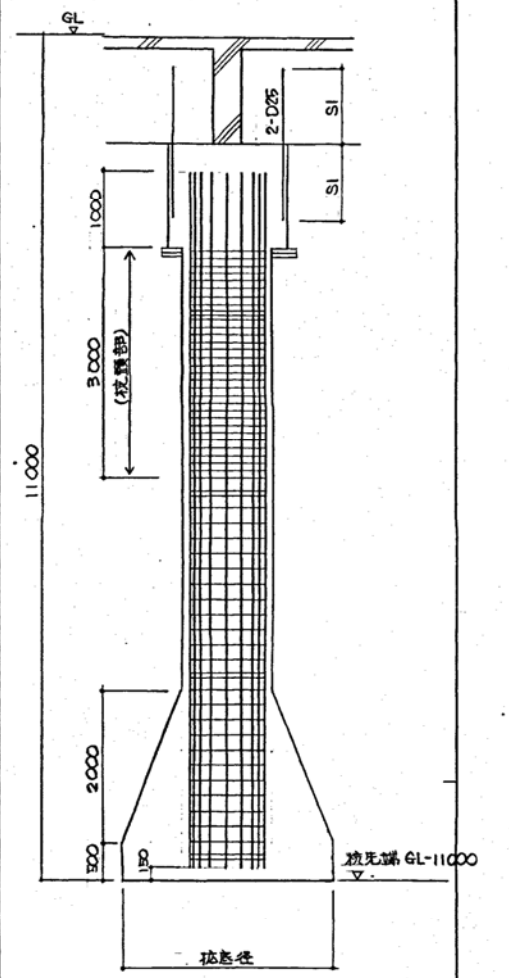
F12a



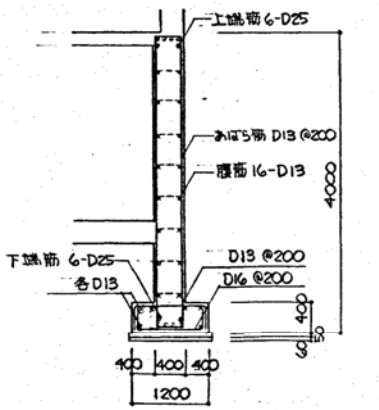
F14



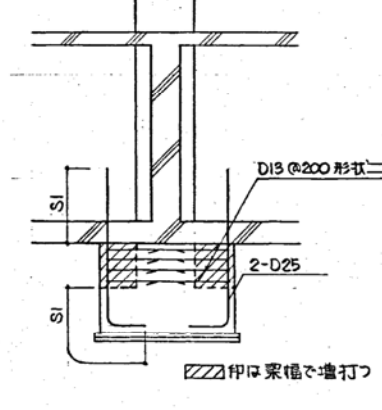
杭配筋等横



FG12



基礎補強筋等横図



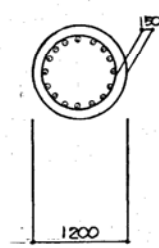
符号

P12

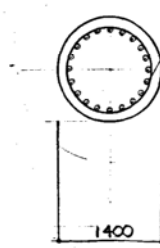
P12a

P14

断面



左に同じ



杭底径

2000φ

2600φ

3000φ

主筋

16-D25

16-D25

20-D25

帯筋

D13 @ 300 (梳頭 @ 150)

D13 @ 300 (梳頭 @ 150)

D13 @ 300 (梳頭 @ 150)

力骨

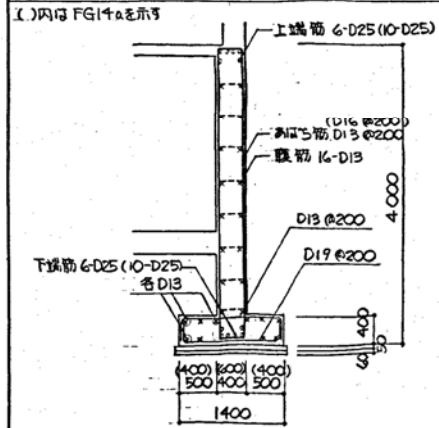
FB-50×6 @ 2400

FB-50×6 @ 2400

FB-50×6 @ 2400

備考

FG14 (FG14a)



竣工 58.12.16

竣工 60.3.20

日建設計

国都庁 練馬区立美術館・真井図書館新築工事

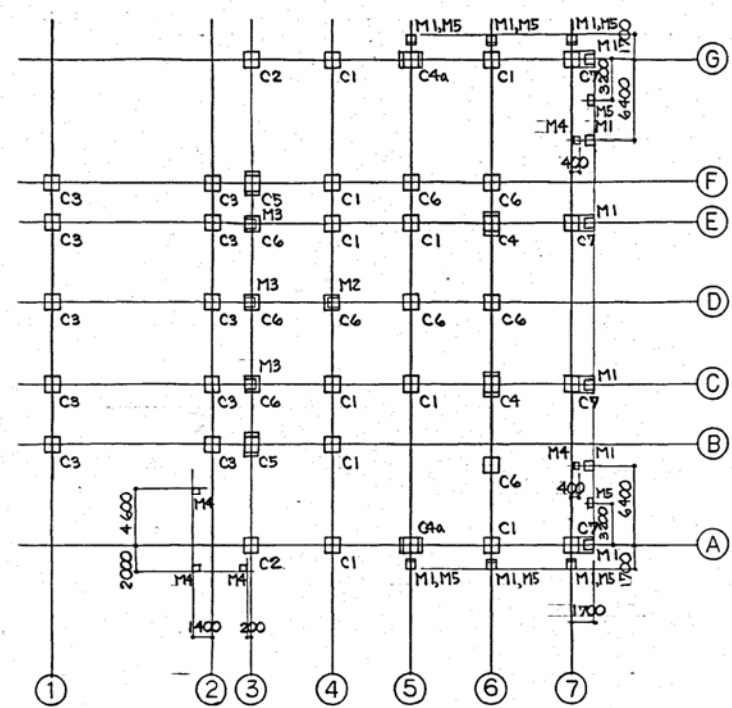
21-7

基礎断面表・杭断面表

No. T-570332-

柱位置図

注記 1. 特記なき限り通り芯線中心とする。



柱断面表 1/50

特記の柱は下記の通り
1. 柱断面の中心は、IFL+2000とする

符号	C1	C2	C3	C4(C4a)	C5	C6	C7
PR							
3							
2							
階	400 400 800	300 500 800		400 400 800	300 500 800		400 400 800
鉄骨	H-500×200×10×16	H-500×200×10×16		H-500×200×10×16	H-500×200×10×16		H-500×200×10×16
主筋	8-D25	8-D25		8-D25	8-D25		8-D25
帯筋	D13 @100	D13 @100		D13 @100	D13 @100		D13 @200
補助筋	6-D16	6-D16		6-D16	6-D16		6-D16
備考							
1							
階	400 400 800	300 500 800	150 500 150 800	400 400 800	300 500 800		400 1700 2100
(柱径)							
鉄骨	H-500×200×10×16	H-500×200×10×16	H-500×200×10×16	H-500×200×10×16	H-500×200×10×16		H-500×200×10×16
主筋	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25		18-D25
帯筋	D13 @100	D13 @100	D13 @100	D13 @100	D13 @100		Ⅲ-D13 @100
補助筋	6-D16	6-D16	6-D16	6-D16	6-D16		3-D13
備考							

間柱断面表 1/50

符号	M1	M2	M3	M4	M5	B1
1						
階	300	250 400 650	300 250 550			
(柱径)						
鉄骨		鉄骨 2L-200×70×7×10	鉄骨 2L-200×70×7×10			
主筋	8-D16	4-D22	4-D22			
帯筋	D10 @100	D10 @100	D10 @100			
補助筋						
備考		中央部にとりおし(2-1120)を配筋	中央部にとりおし(2-1120)を配筋			
B1						
階	300	300				
(柱径)						
主筋	8-D16	8-D16				
帯筋	D10 @100	D10 @100				
補助筋						
備考						
主筋						
帯筋						
補助筋						
備考						

竣工 12.16
竣工 10.30

大梁断面表 1/50							
符号	G1(G1a,G1b)	G2	G3(G3a)	G4(G4a)	G5	G6(G6a)	G7
R PR 3 M3 2 階	<p>61aは、全断面詳細断面 61bは、端部詳細断面CG7に同じ</p>						
鉄骨	WH-500×200 H-496×199 ×9×16	WH-500×200 H-496×199 ×9×16	WH-800×200 H-800×200 ×9×16	WH-800×200 H-496×199 WH-500×200 ×9×16 ×9×14 ×9×16	WH-500×200 H-496×199 ×9×16	WH-500×200 H-496×199 ×9×16	
上端筋	4-D22 2-D22	3-D22 3-D22	4-D25 2-D25	4-D22 2-D22 4-D22	2-D22 2-D22	4-D22 2-D22	3-D22
下端筋	4-D22 2-D22	3-D22 3-D22	2-D25 4-D25	2-D22 2-D22 4-D22	2-D22 2-D22	2-D22 4-D22	3-D22
あばら筋	D10 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @200
腹筋	2-D13	2-D13	4-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13
備考			()内はG3aを示す	G4aの中央部断面は3通端に同じ		()内はG6aを示す	
1 MB1 階						上に同じ	
上端筋	5-D22 3-D22	3-D22	6-D25 10-D25 8-D25	5-D22 3-D22	3-D22		
下端筋	3-D22 3-D22	3-D22	6-D25 8-D25 8-D25	3-D22 3-D22	3-D22		
あばら筋	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200		
腹筋	2-D13	2-D13	6-D13	2-D13	2-D13		
備考			()内はG3aを示す	()内はG4aを示す			

基礎梁断面表 1/50 注記 1. FG12, FG14, FG14aは()内7箇に示す							
符号	FG1	FG2	FG3	FG4 (FG4a)	FG5	FG6	
上端筋	6-D25	5-D25	10-D25 5-D25	8-D25 5-D25	2-D22	2-D22	
下端筋	6-D25	5-D25	5-D25 7-D25	5-D25 5-D25	2-D22	2-D22	
あばら筋	D16 @200	D13 @200	D16 @200	D16 @200	D10 @200	D10 @200	
腹筋	10-D13	6-D13	6-D13	6-D13	4-D10	4-D10	
備考				FG4aは全断面中央部断面とする	硬版の配刀筋は 2-D13, 4-D10	硬版の配刀筋は 2-D13	

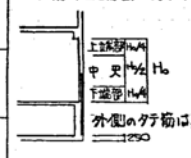
片持梁断面表 1/50 注記 1. CG1, CG2, CG3, CG3aは17F以下には鉄骨スラブ(19F @200 h=80)を設ける							
符号	CG1	CG2 (CG2a)	CG3 (CG3a) (CG3b)	CG4 (CG4a)	CG5	CG6	CG7
鉄骨	WH-500×200 ×9×16	WH-500×200 ×9×16	WH-800×200 (500) ×9×16 (22) WH-800×200 ×9×16 (22)				WH-500×200 ×12×25 WH-500×200 ×12×25
上端筋	4-D22	3-D22	2-D25 4-D25	5-D25	5-D22	4-D25 6-D25	3-D25 6-D25
下端筋	2-D22	3-D22	2-D25 2-D25	3-D25	3-D22	4-D25 4-D25	3-D25 3-D25
あばら筋	D10 @200	D10 @200	D10 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D10 @200
腹筋	2-D13	2-D13	4-D13	6-D13	2-D13	6-D13	2-D13
備考		()内は、9F以下は()内は、CG2aを示す	()内は、9F以下は()内は、CG3aを示す	()内はCG4aを示す			

1. 鋼材はSS41とし、○印はSM50Aとする。
 2. 鉄骨は、外面押えとする。
 3. 鉄骨の端部、中央の区分は、通り筋の位置を端部とし、その他を中央とする。
 4. ---は幅止め筋を示し D10 @600 とする。
 5. SRC大梁の主筋位置は右記による
 A: G1, G2, G3, G4, G5, G6, G7
 B: G1, G2, G3, G4, G5, G6, G7 (G1以外)

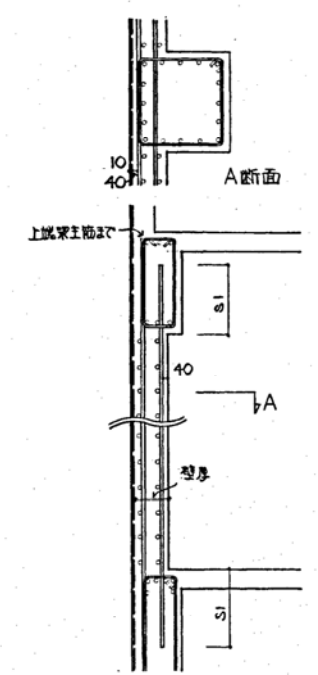
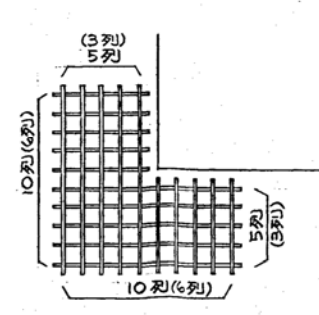
日建設計
 事務所 横浜市立美術館・真井図書館新築工事
 大梁・基礎梁・片持梁断面表
 No. T-570332-21-9

小梁断面表 1/50		B1(B1a)		B2(B2a)		B3		B4(B4a)			B5		B6		B7		B8		B9	
符号		端部	中央	端部	中央	全断面		4-7号端部	6号端部	中央	全断面		端部	中央	端部	中央	端部	中央	全断面	
上端筋		3-D22	2-D22	4-D22	3-D22	3-D16		6-D25	10-D25	8-D25	2-D22		4-D22	3-D22	2-D22	2-D22	2-D22	2-D22	6-D25	
下端筋		2-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D16		6-D25	8-D25	8-D25	2-D22		3-D22	3-D22	2-D22	3-D22	2-D22	4-D22	6-D25	
あはらし筋		D10 @200		D10 @200		D10 @200		D13 @200			D10 @200		D10 @200		D10 @200		D10 @200		D13 @200	
横筋		2-D10		2-D10		—		6-D13			4-D10		2-D10		2-D10		4-D10		10-D13	
備考		B1aは全断面端部断面とする		B2aは全断面端部断面とする		—		B4aは全断面7号端部断面とする			—		—		—		—		—	
符号		B10(B10a)		B11(B11a)		B12(B12a)		B13		B14(B14a)		B15(B15a)						V1		
上端筋		4-D22	2-D22	5-D22	3-D22	2-D22	2-D22	2-D22	2-D22	2-D22	6-D22		6-D19						4-D22	
下端筋		2-D22	4-D22	3-D22	5-D22	2-D22	2-D22	2-D22	2-D22	2-D22	6-D22		6-D19						4-D22	
あはらし筋		D10 @200		D10 @200		D10 @200		D10 @200		D10 @200		D13 @200		2-D13 @200, 2U-D13 @200				D10 @200		
横筋		2-D10		6-D10 (10-D10)		2-D10		2-D10		2-D10		2-D13		16-D13 (6-D13)						
備考		B10aは全断面端部断面とする		()内は B11aを示す		B12aは全断面3号端部断面とする		—		B14aは全断面7号端部断面とする		()内は B15aを示す		—		—		とびすべり(2-M20) @200を配する		

スラブ断面表		短辺方向		長辺方向		備考	
符号	スラブ厚	位置	A部		B部		備考
			端部	中央	端部	中央	
S1	140	上	D10 D13 @200	D13 @400	D10 @200	D10 @200	
		下	D10 @200	←	D10 @200	←	
S2	140	上	D10 D13 @200	←	D10 @200	←	
		下	D10 @200	←	D10 @200	←	
S3	140	上	D13 @200	D13 @400	D10 D13 @200	D13 @400	
		下	D10 D13 @200	←	D10 @200	←	
S4	140	上	D10 D13 @100	←	D10 D13 @100	←	
		下	D13 @100	←	D13 @100	←	
S5	250	上	D16 @200	←	D16 @200	←	
		下	D16 @200	←	D16 @200	←	
FS1	250	上	D13 @200	←	D13 @200	←	
		下	D13 @200	←	D13 @200	←	
FS2	250	上	D16 @200	←	D13 @200	←	
		下	D16 @200	←	D13 @200	←	
CS1	140	上	D10 D13 @200		D10 @200		
		下	D10 @200		D10 @200		
インター	150	(シングル)	D10 @200		D10 @200		5本毎にD10をD13に置き換える

地下外壁断面表		タテ筋		ヨコ筋		備考	
符号	壁厚	位置	タテ筋		ヨコ筋		備考
			外側	内側	外側	内側	
BW50	300	上端部	D16 @200	D16 @200	D19 @200 グラル		タテ筋の上端部・中央・下端部の範囲は下記による 
		中央	D16 @200	D16 @200			
		下端部	D16 @100	D16 @200			

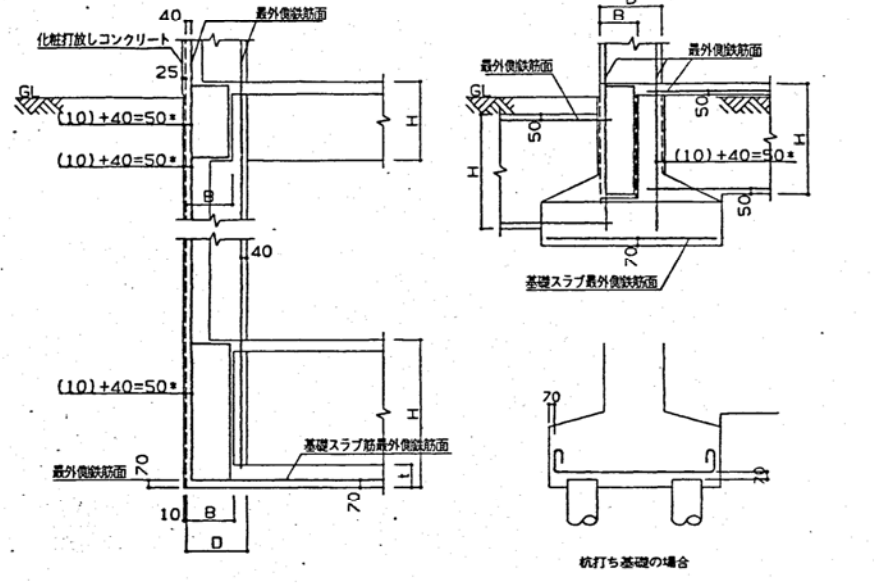
壁断面表		壁筋		開口部		補強筋		備考	
符号	壁厚	壁筋		開口部		補強筋		備考	
		タテ筋	ヨコ筋	タテ筋	ヨコ筋	タテ筋	ヨコ筋		
W15	150	D10 @200 シングル	D10 @200 シングル	1-D13	1-D13	溶接金網 85-1010シメ	1-D13	1-D13	5本毎にD10をD13に置き換える
W18	180	D10 D13 @200 ダブル	D10 D13 @200 ダブル	2-D16	2-D16	溶接金網 1010-1010ダブル	4-D16	4-D16	
W20	200	D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル	2-D16	2-D16	溶接金網 1010-1010ダブル	4-D16	4-D16	
W30	300	D13 D16 @200 ダブル	D13 D16 @200 ダブル	2-D19	2-D19	2-D16	4-D19	4-D19	
W25	250	D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル	2-D16	2-D16	溶接金網 1010-1010ダブル	4-D16	4-D16	

地下外壁配筋等価	溶接金網配筋等価	梁・壁・床開口
	 <p>88-1010はタテヨコ天端を素線10cmピッチとする 1010-1010は10mm ()内は W15a配筋等価を示す</p>	<p>各貫通孔・開口の寸法及び数量は以下通り</p> <p>1 引掛梁の貫通孔</p> <ul style="list-style-type: none"> 100φ 9ヶ所 150φ 5ヶ所 250φ 5ヶ所 300φ 1ヶ所 <p>2 壁設備開口 (W20)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2000 × 750 程度 2ヶ所 1500 × 500 × 7ヶ所 800 × 450 × 5ヶ所 500 × 300 × 4ヶ所 200 × 200 × 4ヶ所 <p>3 床設備開口</p> <ul style="list-style-type: none"> 1000 × 200 程度 4ヶ所 750 × 450 × 2ヶ所 350 × 300 × 10ヶ所

1 鉄筋のかぶり厚さ 2 鉄筋の折曲げ要領 3-1 鉄筋の継手要領 3-2 鉄筋の継手位置要領 (柱・大梁) 3-4 鉄筋の継手位置要領 (小梁)

構造種別	設計かぶり厚さ	
床スラブ 仕上げあり	25	
屋根スラブ 仕上げなし	35	
土に接しない部分	柱 屋内部分	40
	柱 屋外部分	40
土に接する部分	柱・梁・壁・床スラブ	50
	基礎スラブ・擁壁	70
壁開口補強の溶接金網	壁	50
	突	60
壁開口補強の溶接金網	壁	50
	突	70
壁開口補強の溶接金網	仕上げあり	30
壁開口補強の溶接金網	仕上げなし	35

- (注) 1. かぶり厚さは最外側鉄筋面からの寸法とする。
 2. かぶり厚さの最小値はJASS 5の10部による。
 3. 「仕上げ」とはコンクリートの中性化抑制・耐火性向上に有効なものを含む。
 4. 軽量コンクリートの場合は左表による。
 5. 化粧打放しコンクリートの場合は左表設計かぶり厚さの他に25mm増し打ちを行う。
 6. 土に接する側面はかぶり厚さの差(()で示す寸法)を外側に増打つ。(下図・印参照)



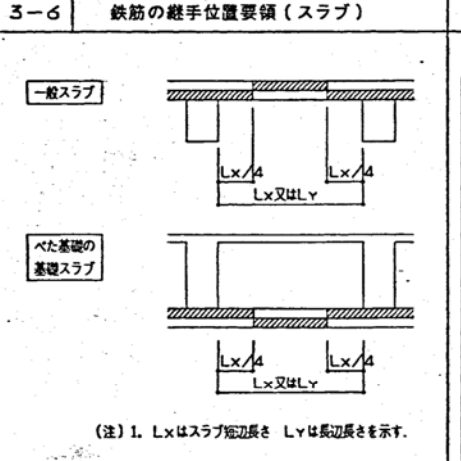
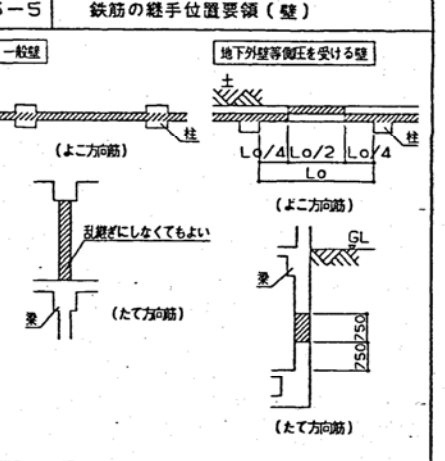
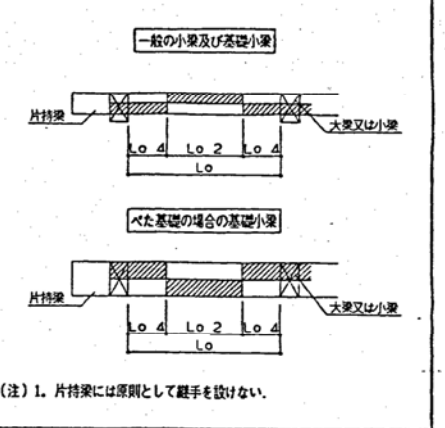
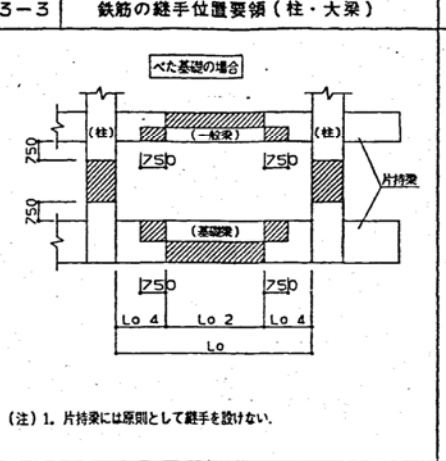
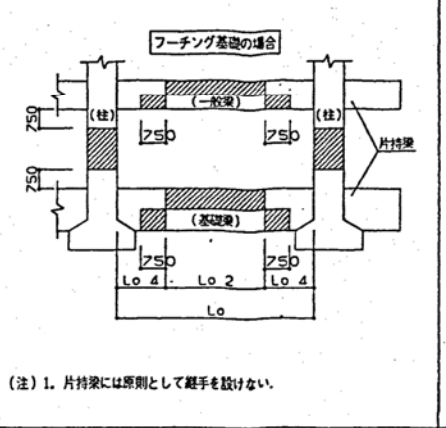
折曲げ角度	鉄筋の種別	曲げうちの寸法(D)	折曲げ要領
180°	SR24	3d以上	
	SD30	4d以上	
	SD35	4d以上	
135°	SR24	3d以上	
	SD30	4d以上	
	SD35	4d以上	
90°	SR24	3d以上	
	SD30	4d以上	
	SD35	4d以上	

折曲げ角度	鉄筋の使用箇所及び鉄筋径	鉄筋の種別	曲げうちの寸法(D)	折曲げ要領
90°	下記	SR24	6d以上	
		SD30	6d以上	
		SD40	6d以上	
	以外	SR24	8d以上	
		SD30	8d以上	
		SD40	8d以上	
以下	あばら筋	SR24	3d以上	
	帯筋	SD30	4d以上	
	スライアル筋	SD35	4d以上	
	スラブ・壁筋で	SR24	5d以上	
	d<16φ	SD30	5d以上	
	d<D1.6	SD35	5d以上	

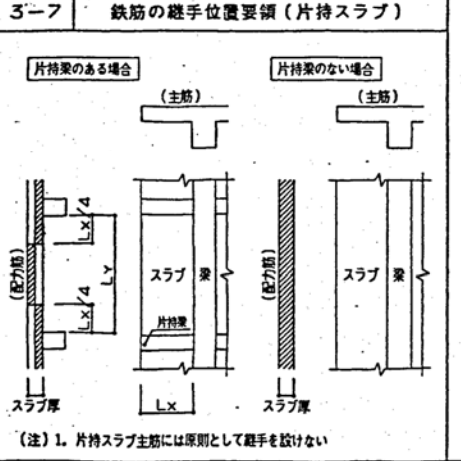
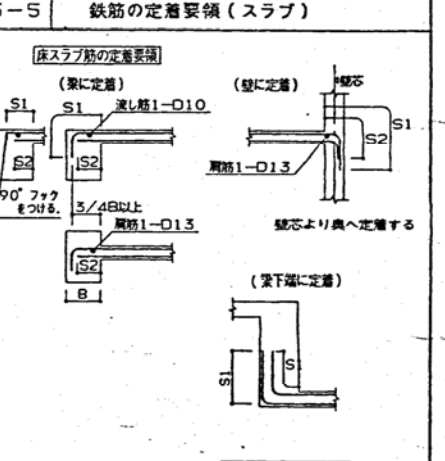
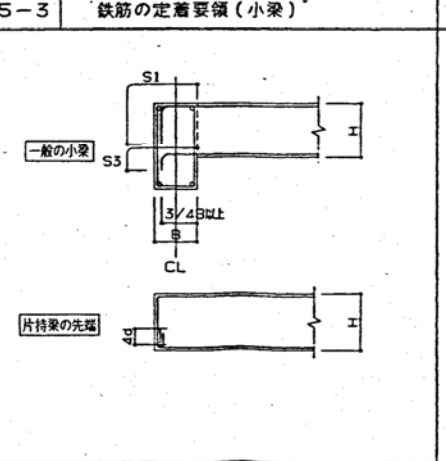
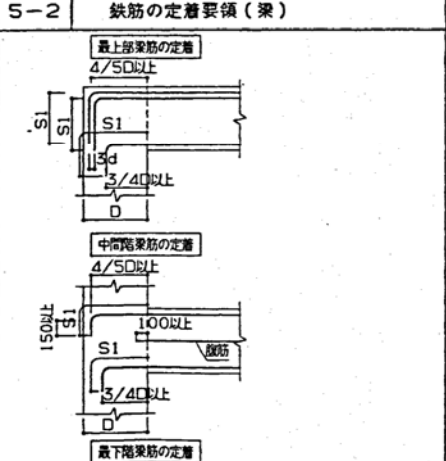
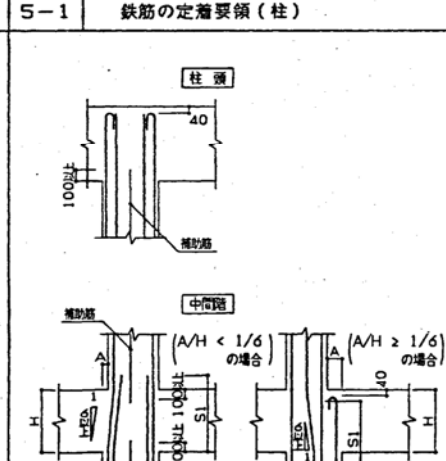
1. 継手位置は 3-2 ~ 3-7 による。
 2. 継手長さは 4) による。
 3. 下記の場合は原則としてガス圧接しない。
 a) 鉄筋の規格、種類又は製造所の異なる場合。
 b) 鉄筋の直径(呼び径)の差が7mmを超える場合。
 4. あばら筋、帯筋を溶接する場合は 6)・7) による。(SRCの場合)
 5. 3-2 ~ 3-7 の共通注記
 a) 継手は互継手とする。
 b) 継手中心は印内に設けること。

種類	a	乱継手要領図
重ね継手の場合	a > 1.5d	
	かつ2.5以上	
フックのない場合	a > 1.5d	
	かつ2.5以上	
ガス圧接の場合	a > 400	
	かつ1.5d以上	

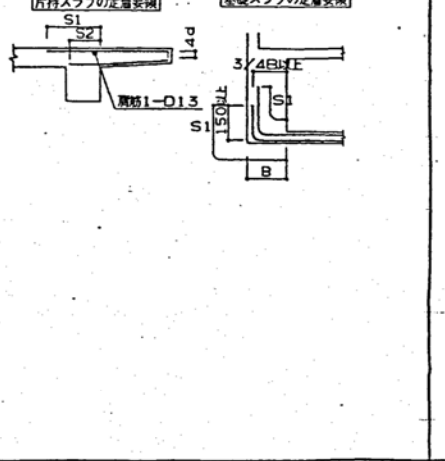
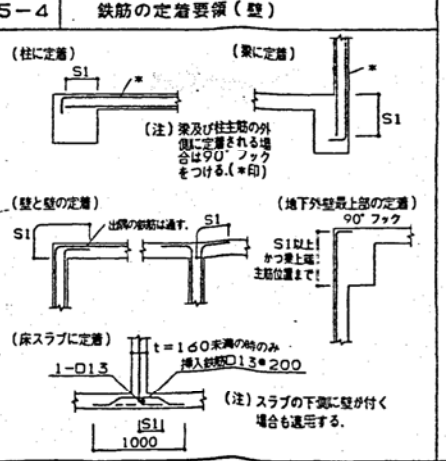
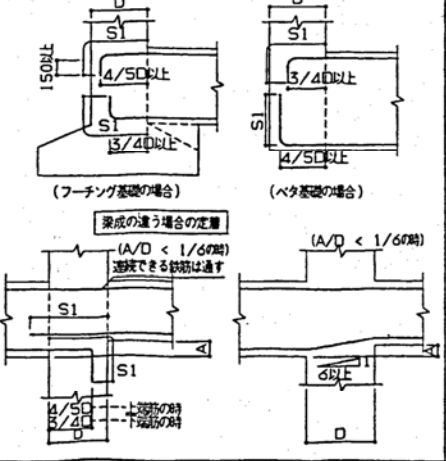
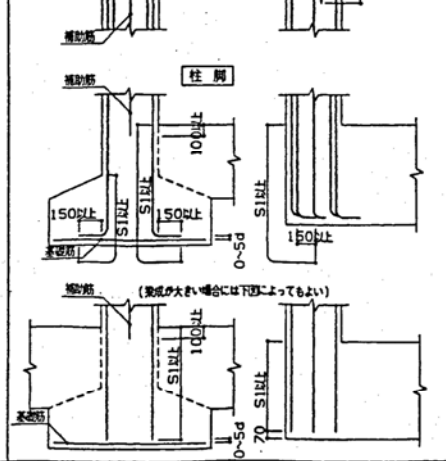
(注) 1. *印は継手中心位置を示す。



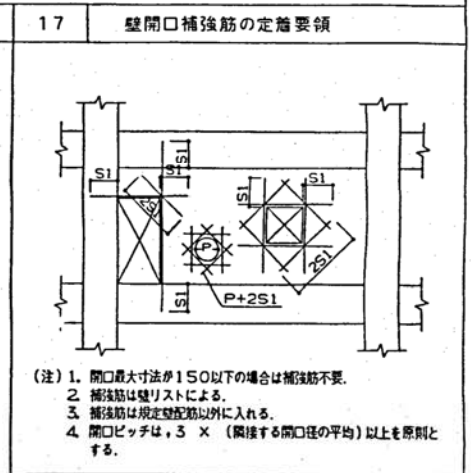
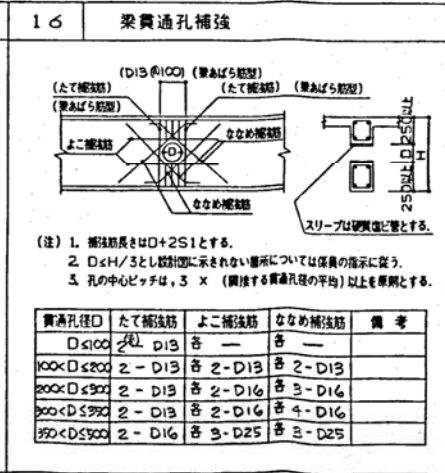
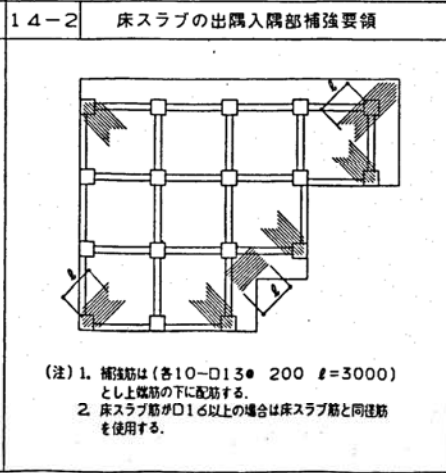
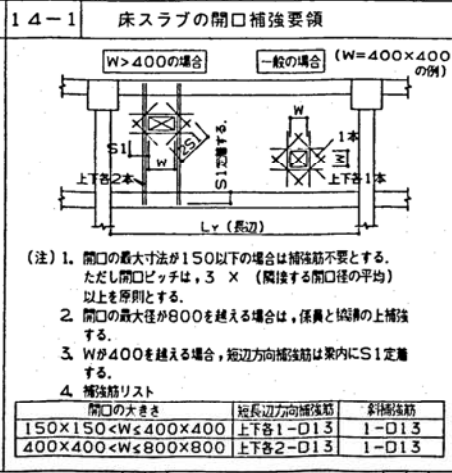
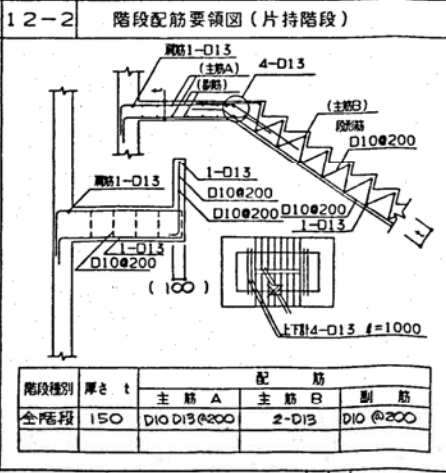
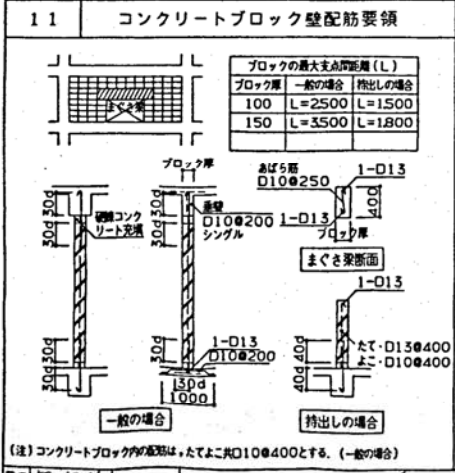
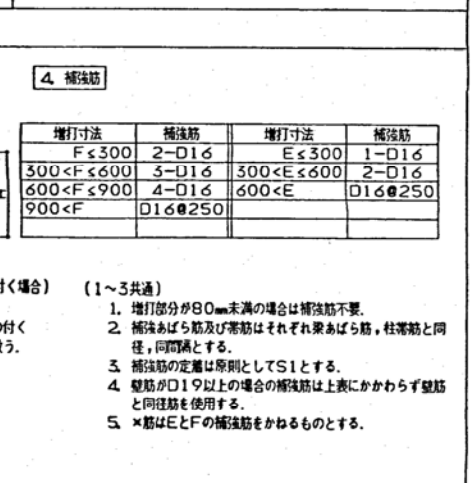
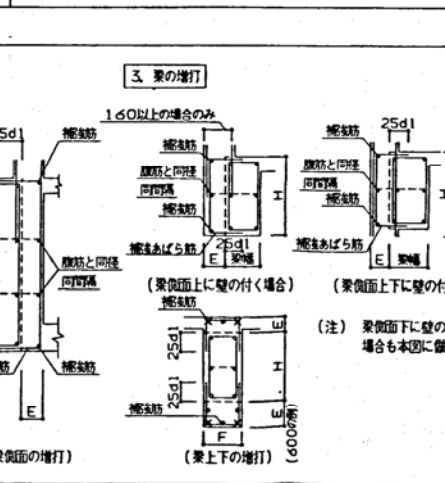
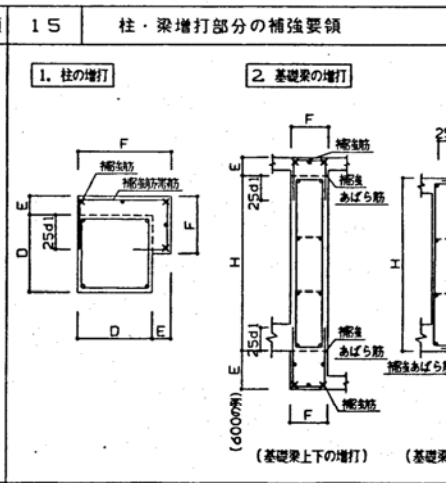
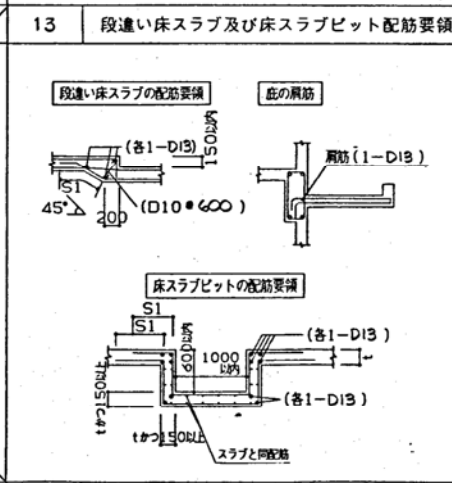
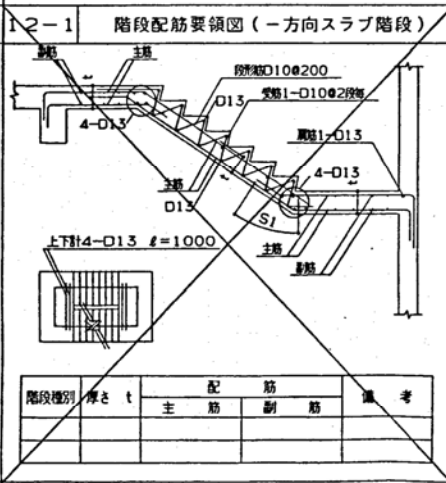
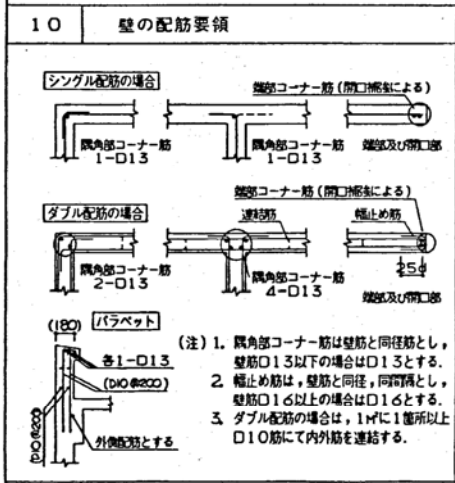
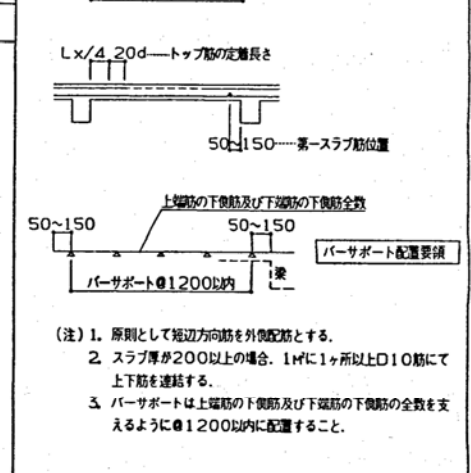
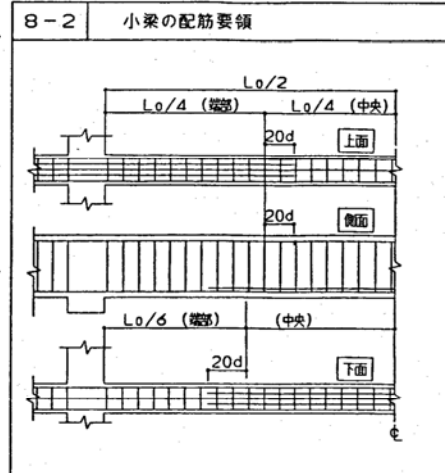
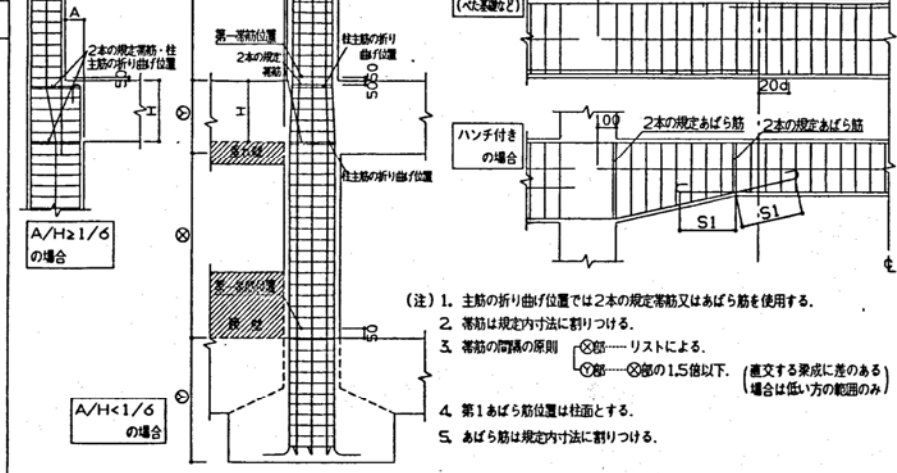
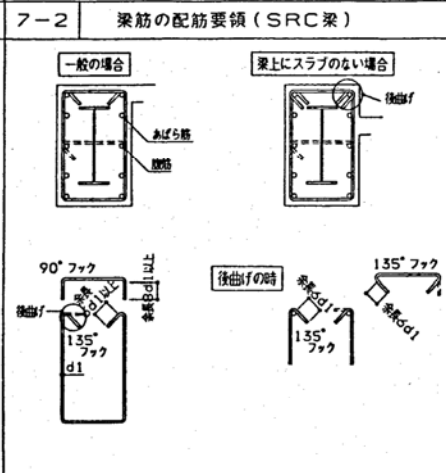
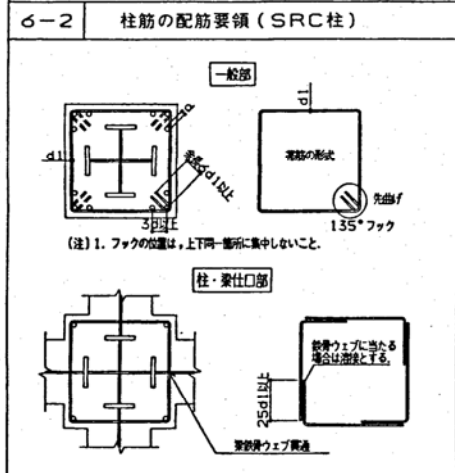
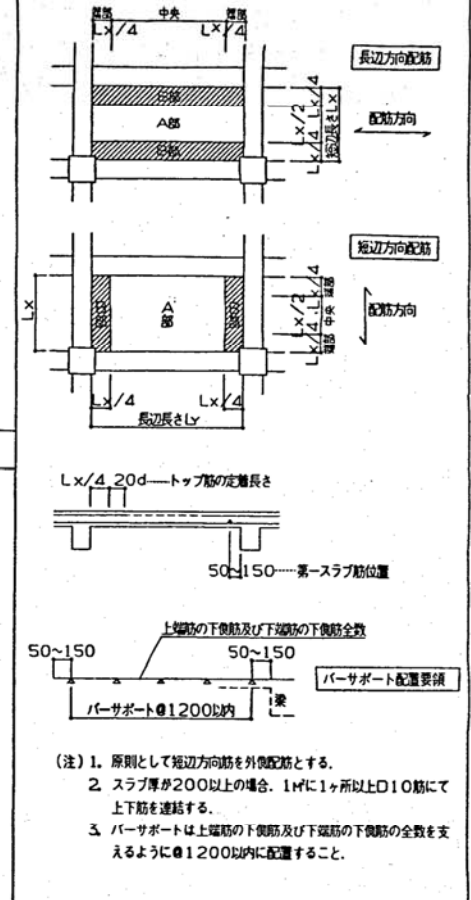
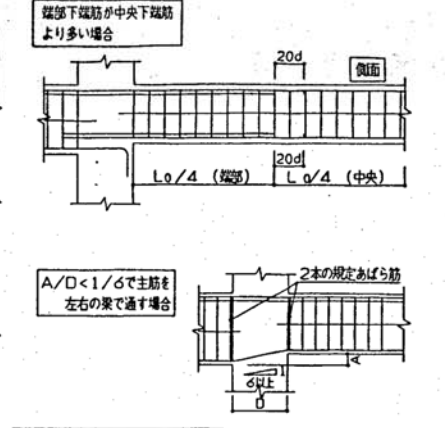
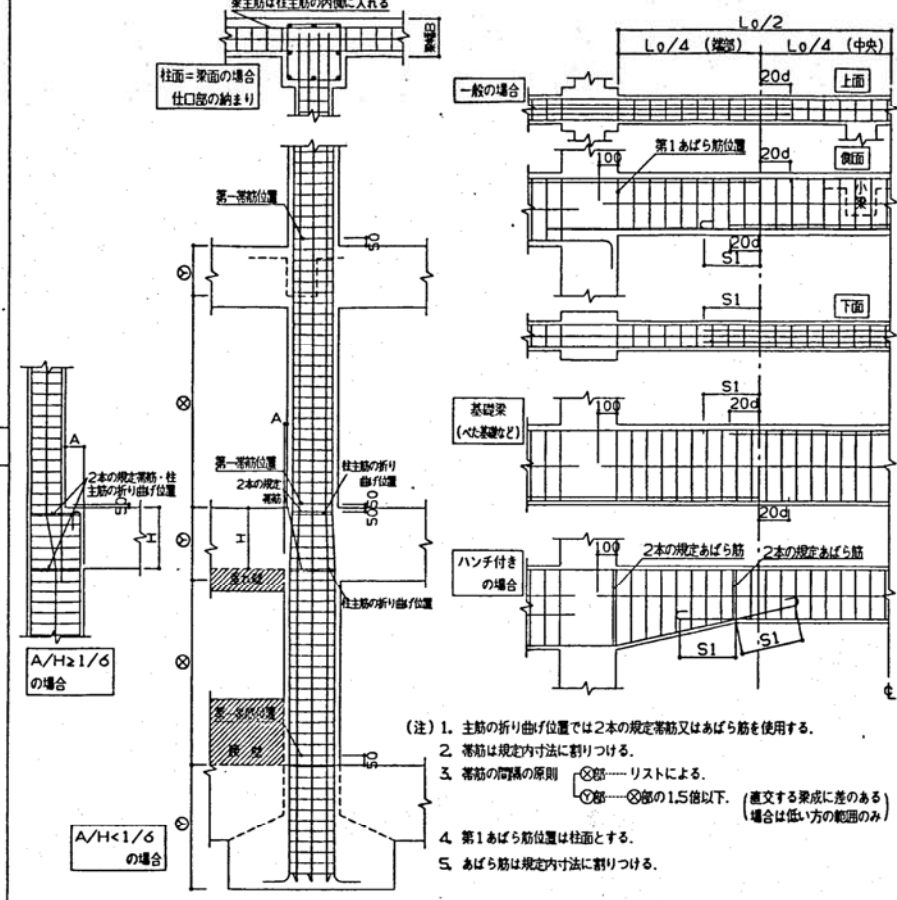
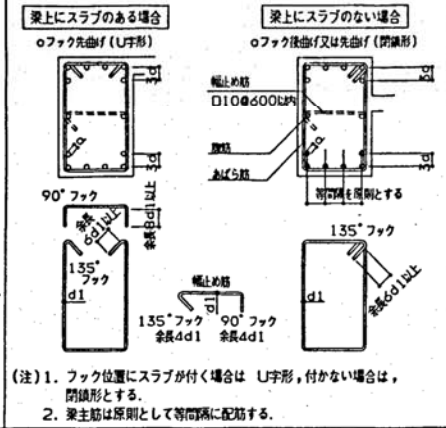
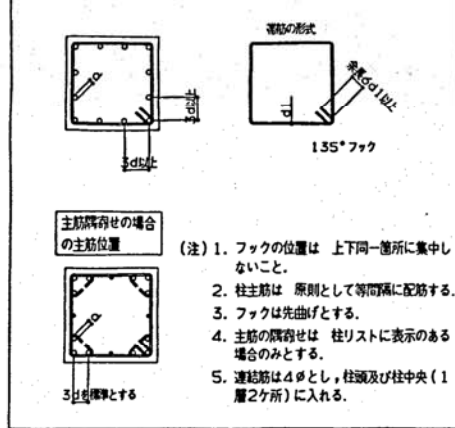
状態	鉄筋	フック	コンクリートの種別			
			Fc=180	Fc=210	Fc=240	lc=210
SR24	あり	37d	32d	30d	32d	
	なし	42d	36d	33d	36d	
SD30	あり	28d	24d	22d	24d	
	なし	49d	38d	38d	42d	
SD35	あり	32d	28d	25d	30d	
	なし	56d	48d	43d	48d	
SD40	あり	37d	32d	29d	32d	
	なし					
S2	SR24	あり	15cm			
S3	SR24	あり	25d			
	SD30	あり	15d			
	SD35	なし	25d			



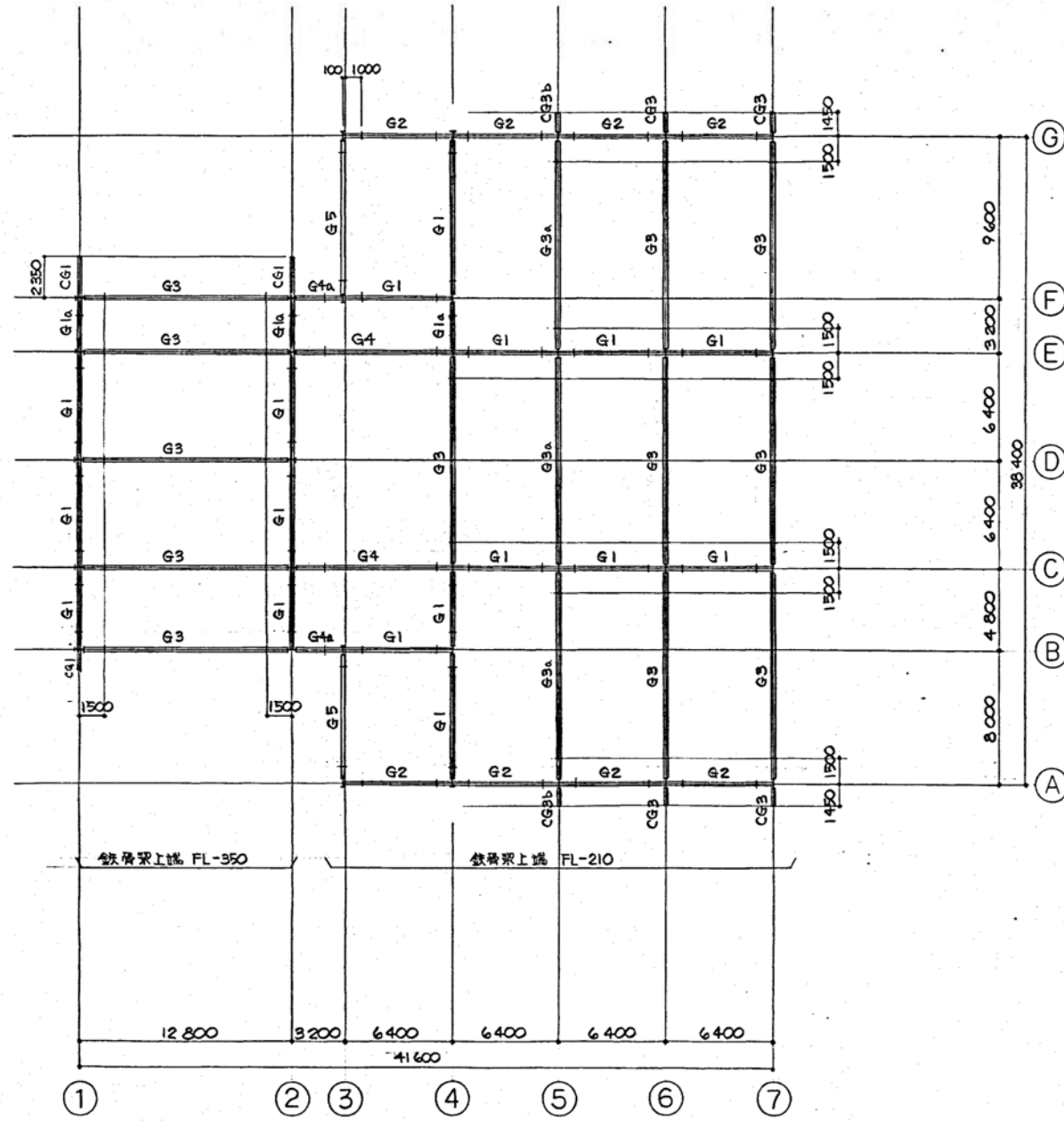
- (注) 1. dは鉄筋の公称直径による。径の異なる鉄筋の継手長さは短い鉄筋のdによる。
 2. 末端のフックは定着及び重ね継手の長さには含まない。
 3. 異形鉄筋の定着及び重ね継手で下記に該当する部分にあるものは、必ずフックをつける。ただし定着長さはフックなしの場合による。
 1) 柱の内部にある主筋
 2) 梁の下端及び出隅主筋、ただし柱・梁等に定着される梁筋の末端及び基礎梁筋の場合は除く。
 3) 壁の出隅に沿った鉄筋
 4) 煙突の主筋
 5) 片持梁の上端主筋先端部
 4. 丸鋼の末端には必ずフックをつける。



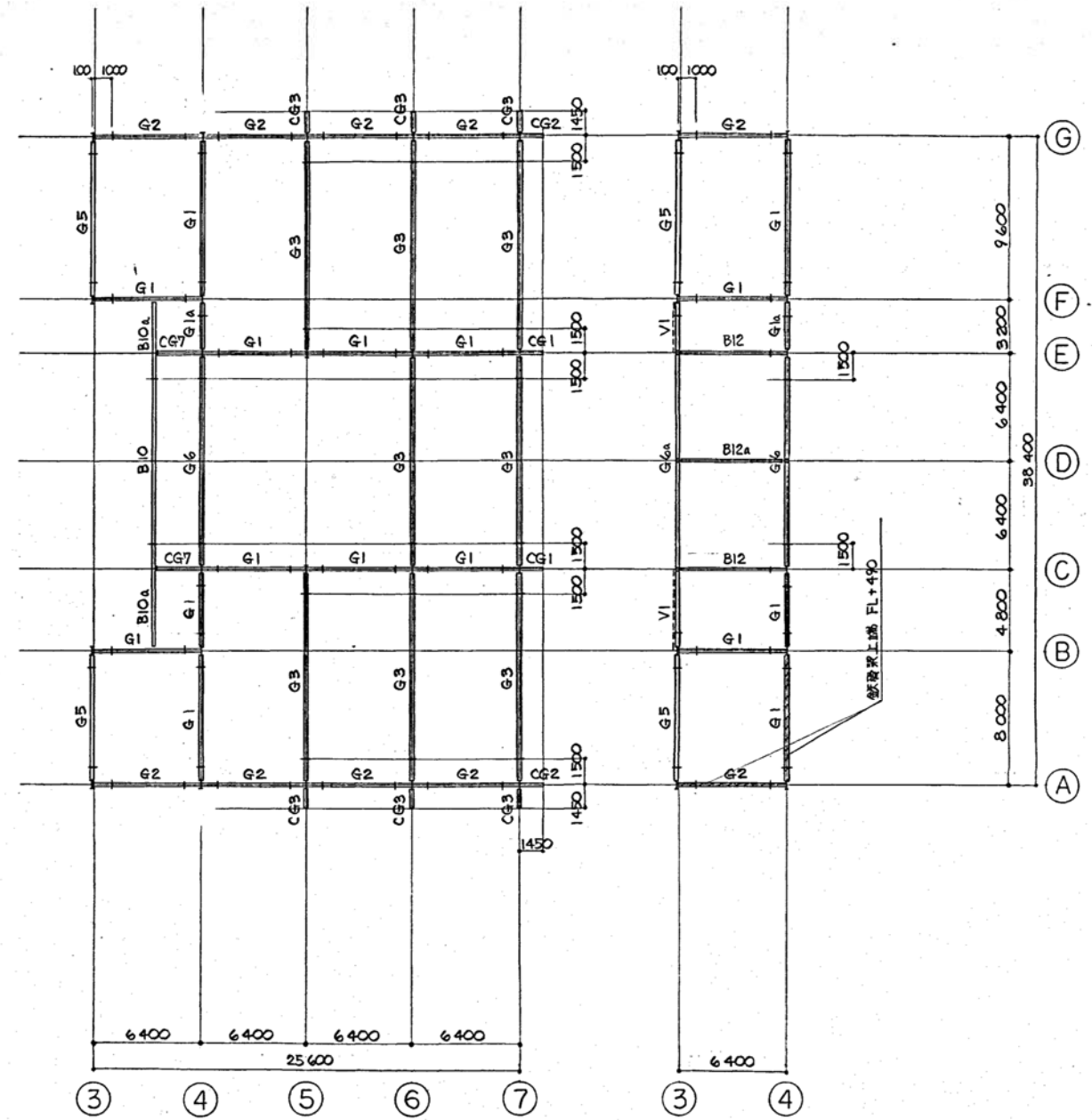
6 柱筋の配筋要領 (RC柱) 7 梁筋の配筋要領 (RC柱) 8-1 柱・梁の配筋要領 9 スラブ筋の配筋要領



2階鉄骨床梁伏図



3階・PR階鉄骨床梁伏図



(3階鉄骨床梁伏図)

(PR階鉄骨床梁伏図)

日付	58.12.16
修正	60.3.30

- 特記なき限り下記による
1. 鉄骨梁上端 FL-170
 2. 梁継手位置は、各通りより1000とする

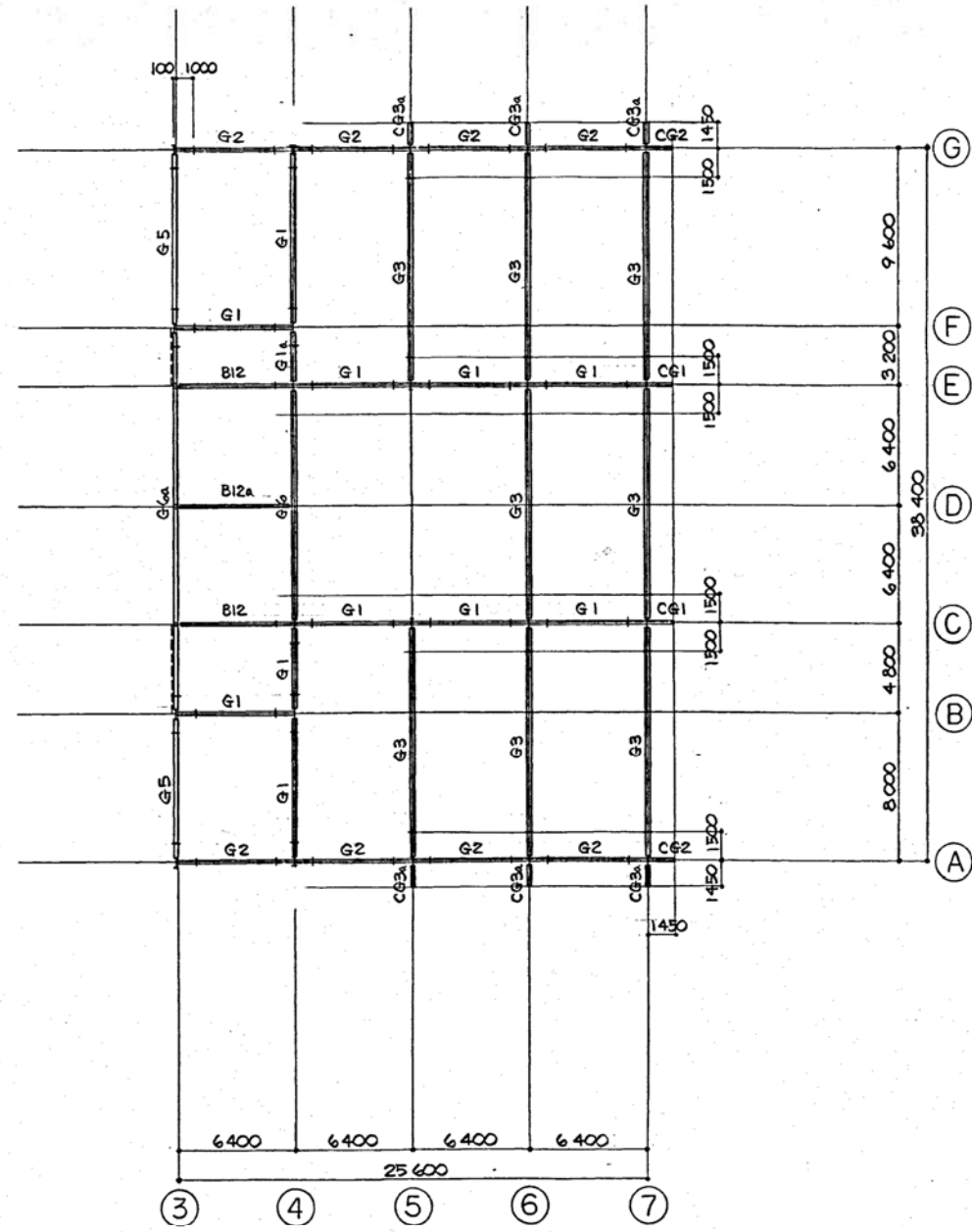
日建設計

福岡市立美術館・真井図書館新築工事

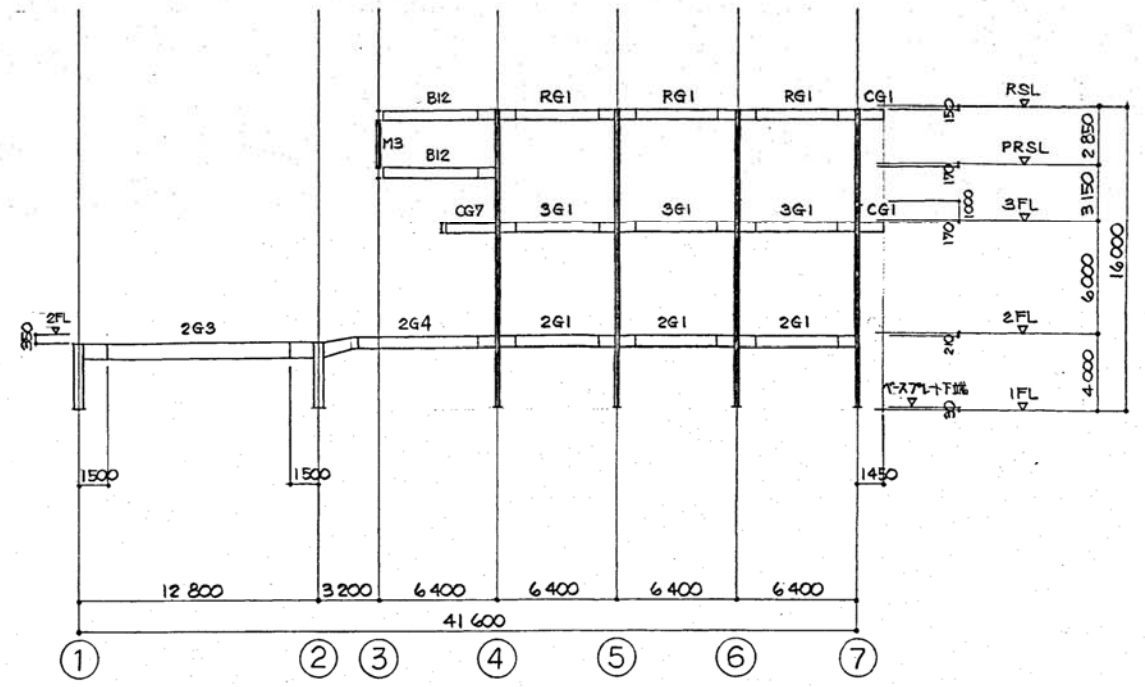
21-13

2階・3階・塔屋階鉄骨床梁伏図 No. T-570332-

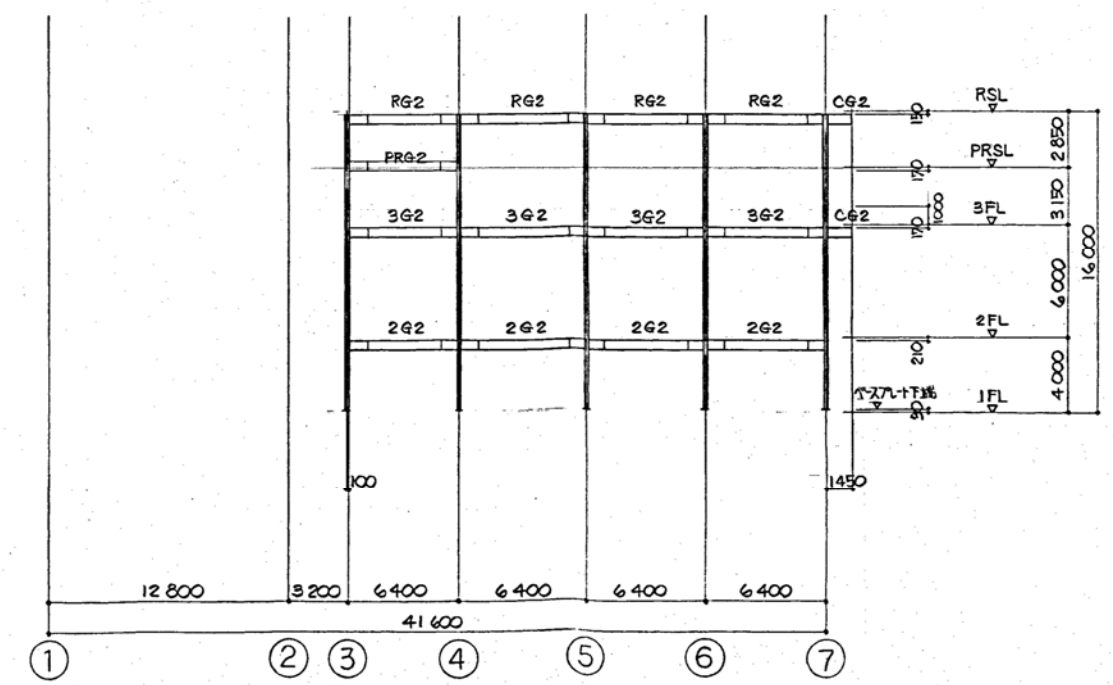
R階鉄骨床梁伏図



C階鉄骨軸組図



A階鉄骨軸組図



図工	58.12.16	
図工	60.3.30	

桁架配置順り下図による
 1. 鉄骨梁天端 SL-150
 2. 梁継手位置は、各通り芯より 1000 とする

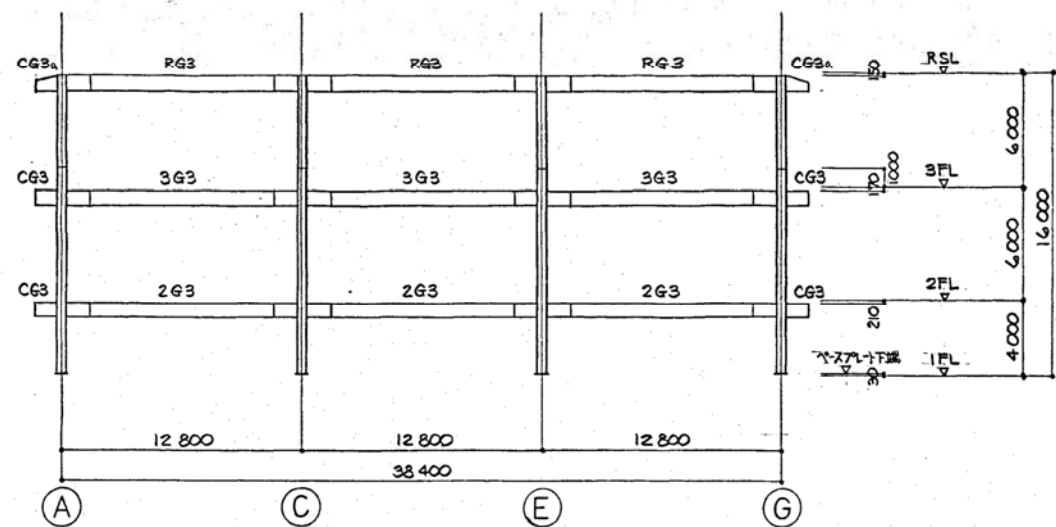
日建設計

飯粉 藤馬区立美術館・真井図書館新築工事

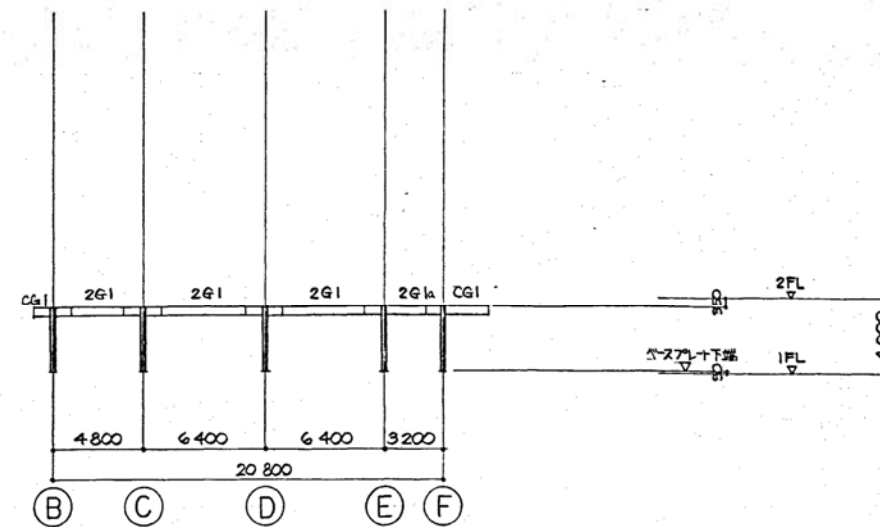
21-14

鉄骨床梁伏図・鉄骨軸組図 1/200 No. T-570332-

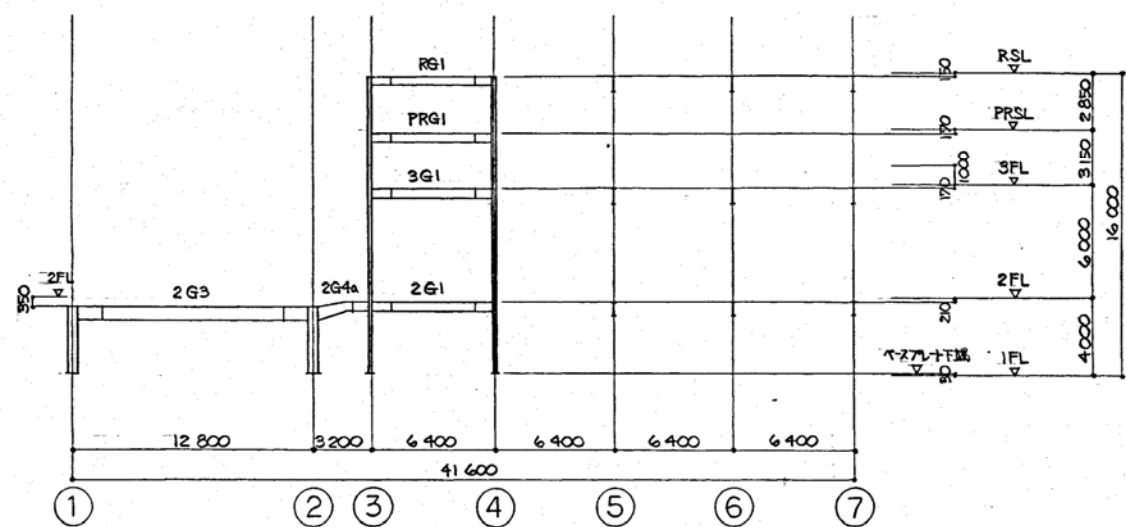
7 通鉄骨軸組図



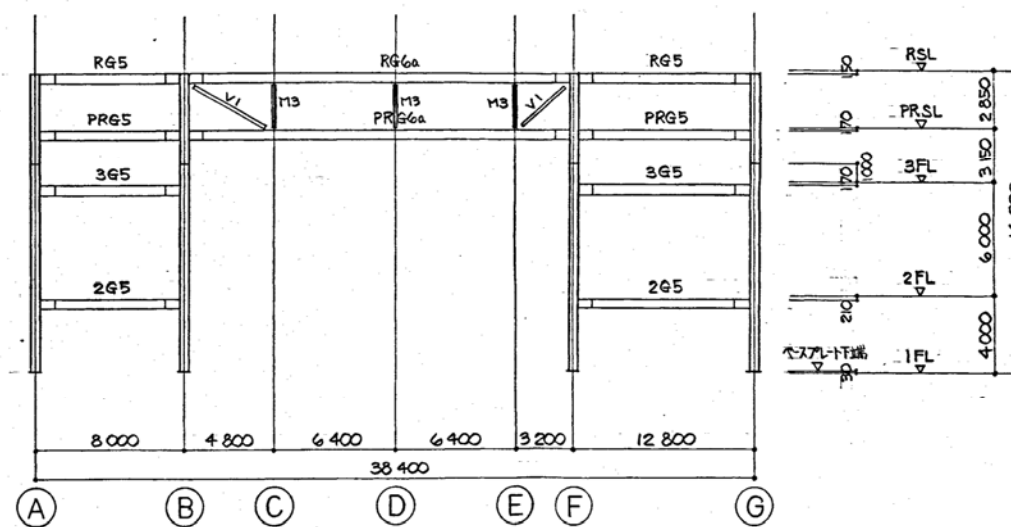
1 通鉄骨軸組図



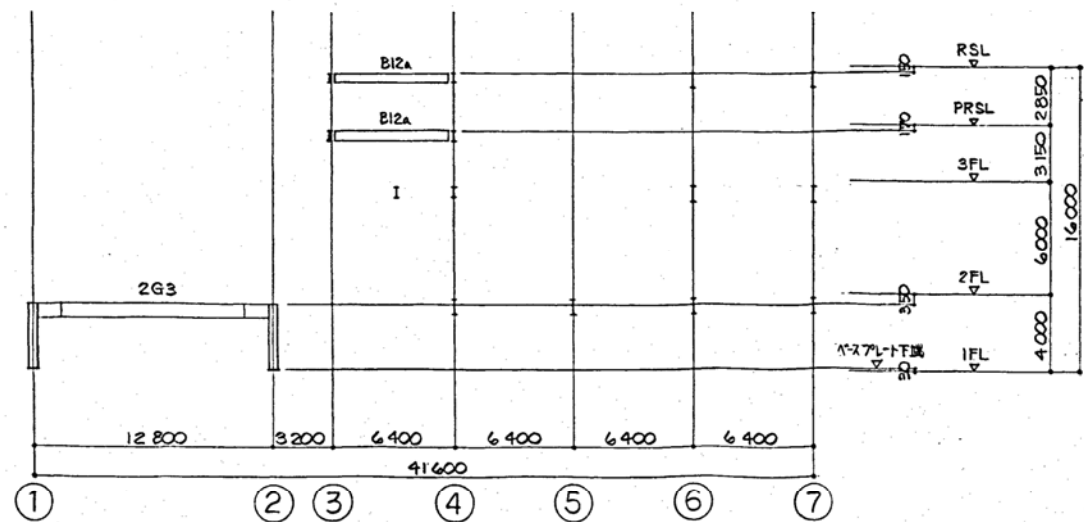
F 通鉄骨軸組図



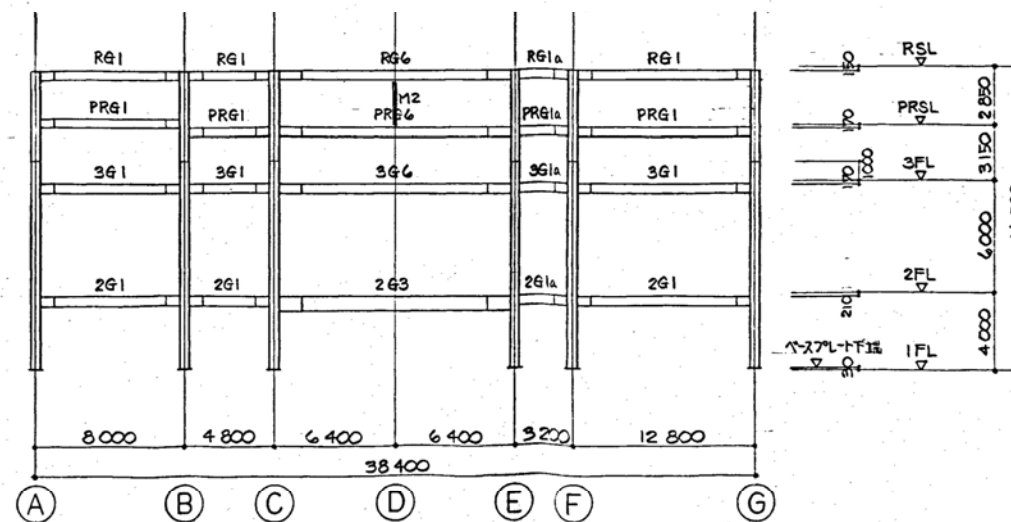
3 通鉄骨軸組図



D 通鉄骨軸組図



4 通鉄骨軸組図



図工	58.12.16
設計	60.3.30

日建設計

(株) 練馬区立美術館・真井図書館新築工事

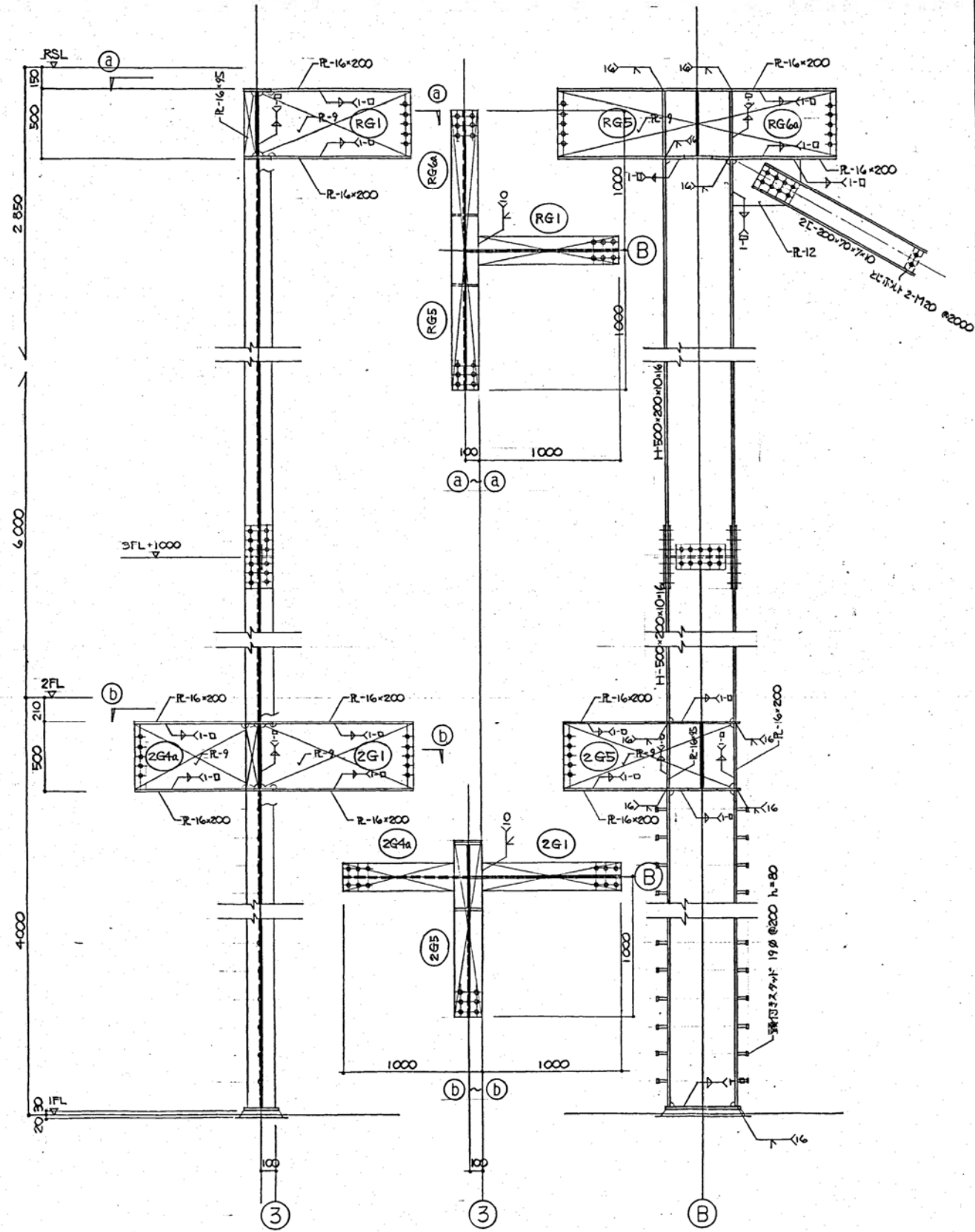


21-15

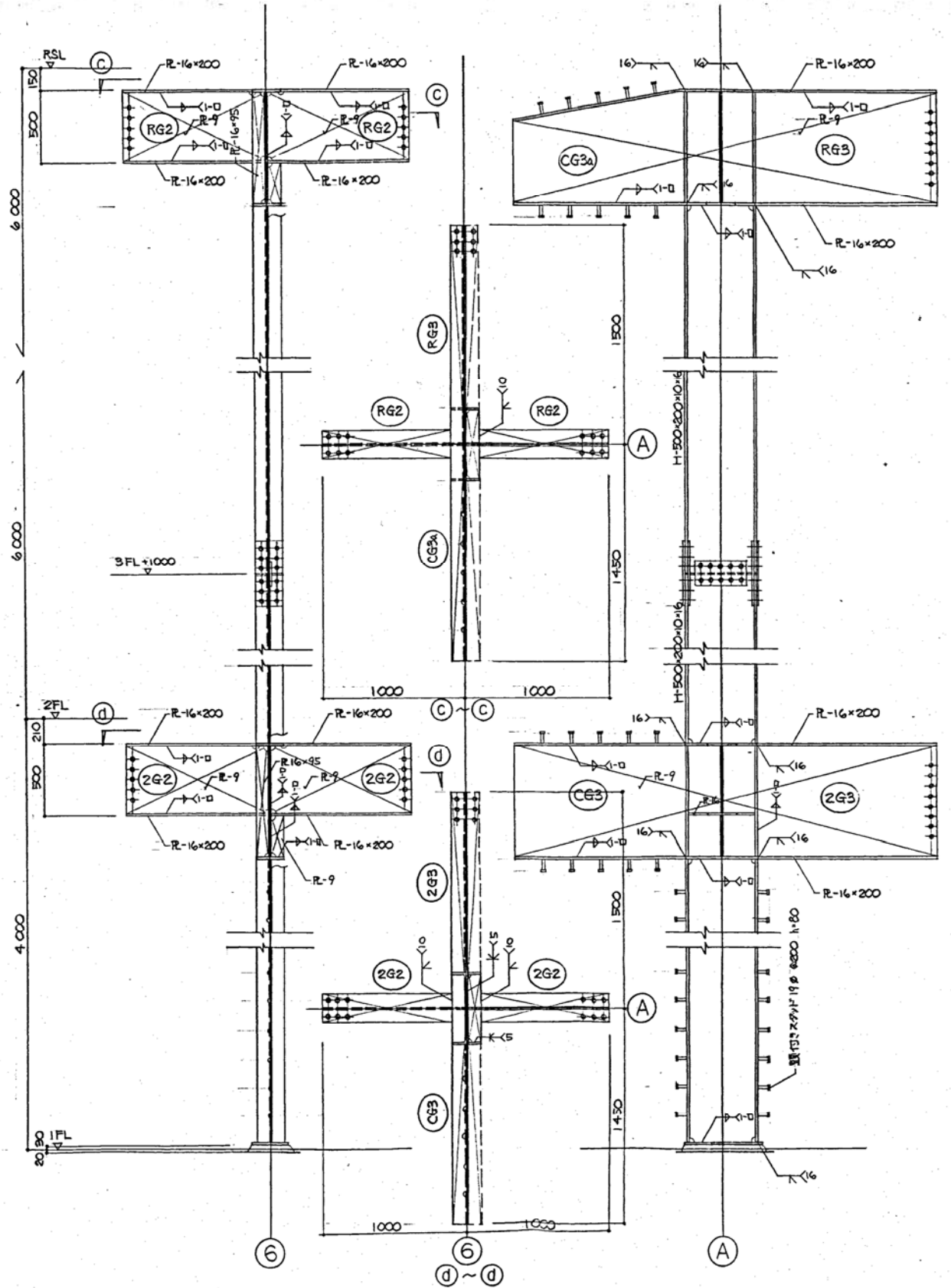
鉄骨軸組図 1/200

No. T-570332-

C5(B-3) 鉄骨柱詳細図



C1(A-6) 鉄骨柱詳細図



図工 58.12.16
図工 60.3.30

注) 高力ボルトはM20 SIOT ボッチ 70 とす

日建設計

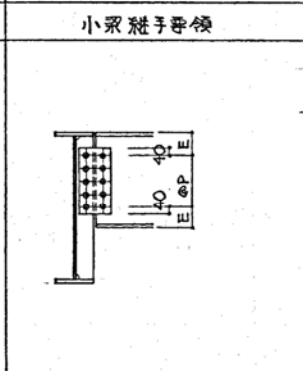
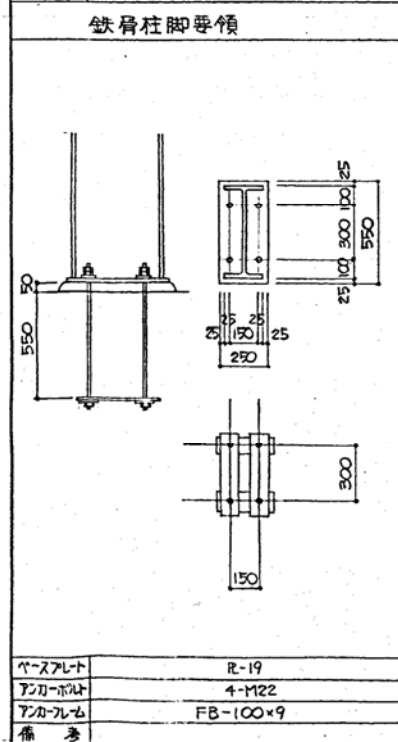
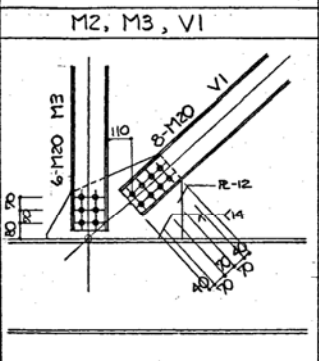
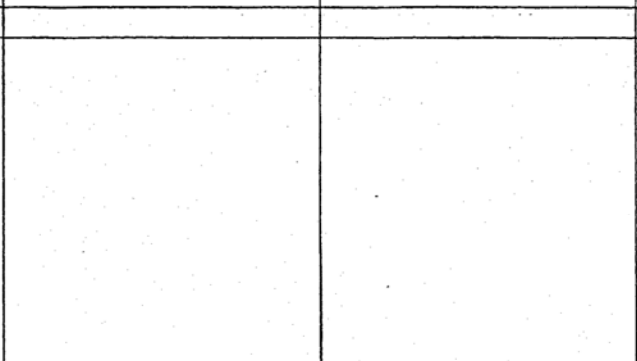
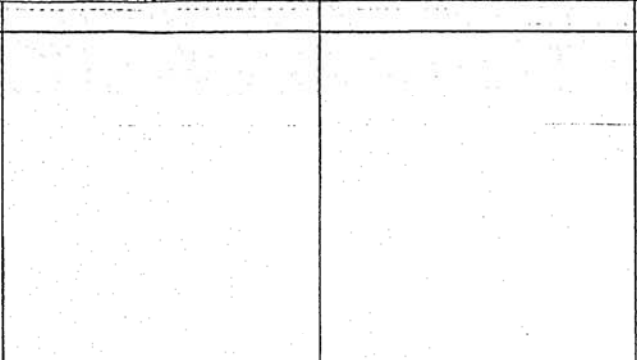
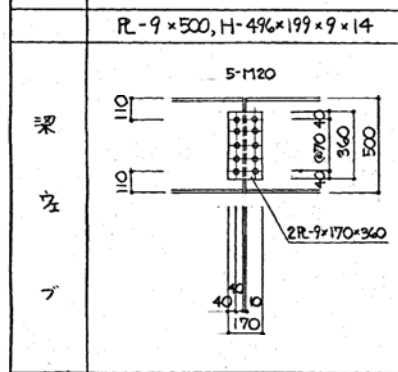
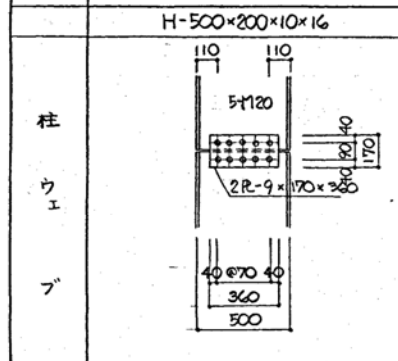
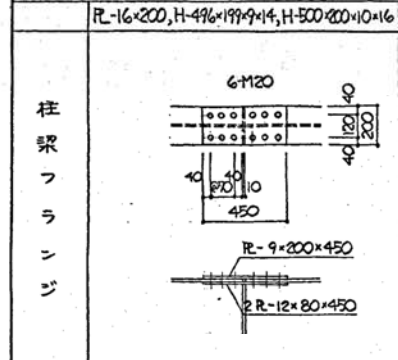
(仮) 練馬区立美術館・資料図書館新築工事

21-16

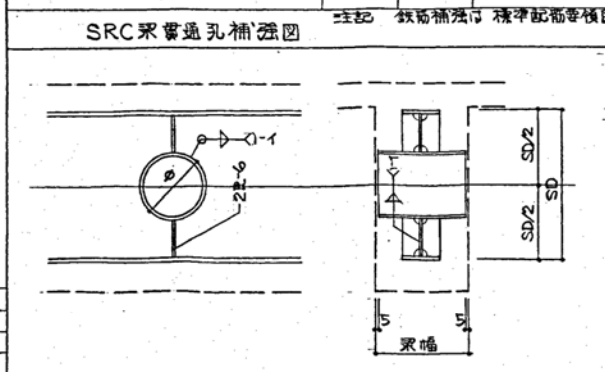
鉄骨柱詳細図 1/20

No. T-570332-

継手基準図 1/20 特記事項に示す通り
 1. 鉄材 S541 2. 鋼板 1mm以上の厚みがある場合は、板厚差のフラットを入れる
 3. 鋼材 M120 の継手寸法は 70とす



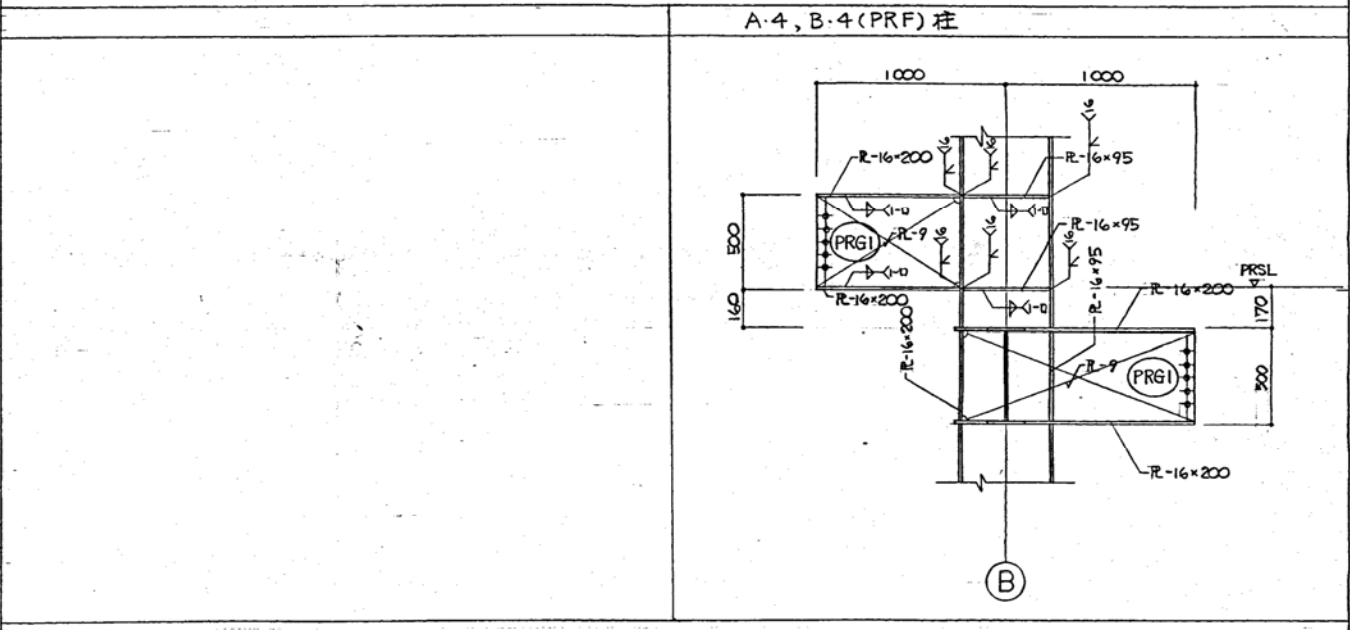
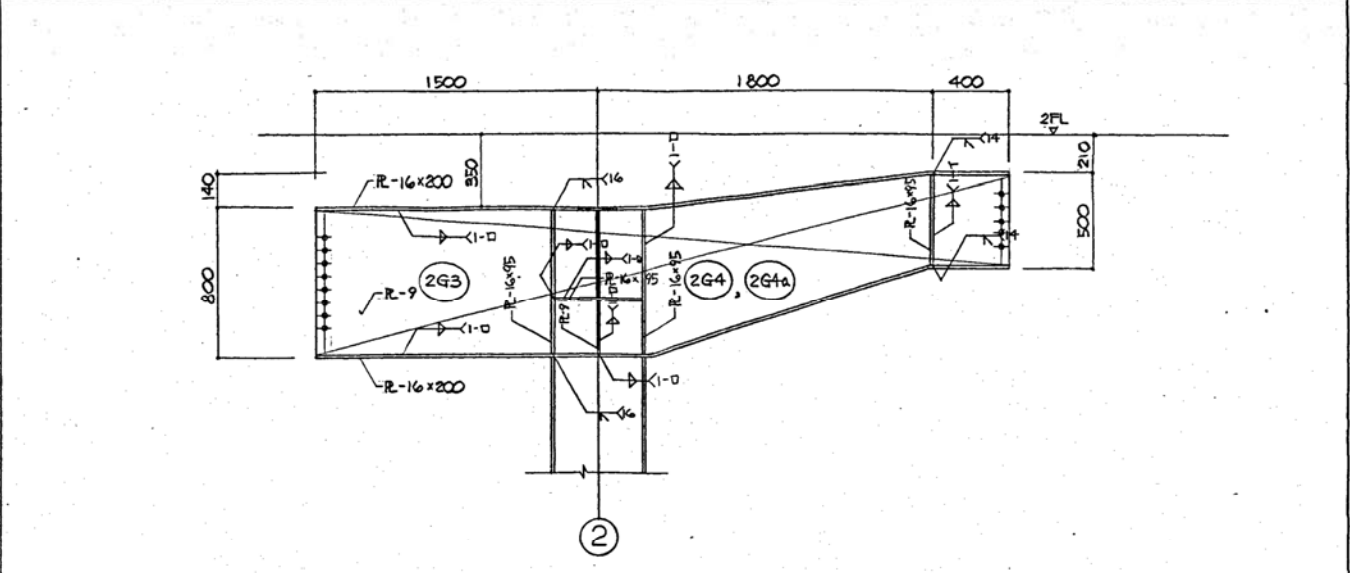
番号	ボルト	スパライズプレート	ワザノリ	P	E	備考
B10a	5-M120	2R-9x170x360	12	70	110	
B12, B12a	5-M120	2R-9x170x360	12	70	110	B10との取合
CG7	5-M120	2R-9x170x360	12	70	110	



管通孔径	補強スリーブ	1個	数
150φ	165.2φ x 5.0	—	—
200φ	216.3φ x 5.8	—	—
250φ	267.4φ x 6.6	—	—
300φ	318.5φ x 7.9	—	—
350φ	355.6φ x 7.9	92	—

鋼材	R-19
ボルト	4-M122
ワザノリ	FB-100x9
備考	
施工	58.12.16
検査	60.3.30

鉄骨仕口要領
 B-2, C-2, E-2, F-2 (2F) 柱



日建設計

大阪府堺市立美術館・真井図書館新築工事 21-17
 継手基準図・仕口要領図 No. T-570332-

1		隅肉溶接	2		断続隅肉溶接	3		隅肉溶接(重ね継手)	4		隅肉溶接	5		K型突合せ溶接	6																																																								
<p>継手仕口形状</p> <table border="1"> <tr> <td>薄いほうの母材の厚さ</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>12</td> <td>16</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>フランジウェブリブ</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7.5</td> <td>10</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>剪断力を伝える</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>9.5</td> <td>13</td> <td></td> </tr> <tr> <td>軸方向力を伝える</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>15</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			薄いほうの母材の厚さ	6	9	12	16	19	フランジウェブリブ	5	6	7.5	10	12	剪断力を伝える	6	7	9.5	13		軸方向力を伝える	8	11	15			<p>注) 脚長(S) 溶接長(L) 及 溶接ピッチ(P)は特記する。</p>			<p>注) 脚長(S)決定はダイヤルに依る。</p>						<p>イ: 一般 ロ: 継手及仕口で軸方向力の伝達を目的とする場合</p> <table border="1"> <tr> <td>aの値</td> <td>t1</td> <td>16</td> <td>19</td> <td>22</td> <td>25</td> <td>28</td> <td>32</td> <td>36</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>17</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ロ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0-1</td> </tr> </table>			aの値	t1	16	19	22	25	28	32	36	40	イ	8	9	11	12	14	15	17			ロ									0-1			
薄いほうの母材の厚さ	6	9	12	16	19																																																																		
フランジウェブリブ	5	6	7.5	10	12																																																																		
剪断力を伝える	6	7	9.5	13																																																																			
軸方向力を伝える	8	11	15																																																																				
aの値	t1	16	19	22	25	28	32	36	40																																																														
イ	8	9	11	12	14	15	17																																																																
ロ									0-1																																																														
7		I型突合せ溶接	8		V型突合せ溶接	9		X型突合せ溶接	10		L型突合せ溶接	11		K型突合せ溶接	12		V型突合せ溶接																																																						
			<p>t2 = t1 又は t2 < t1 + 4% の場合</p> <p>t2 ≧ t1 + 4% の場合</p>			<p>t2 = t1 又は t2 < t1 + 4% の場合</p> <p>t2 ≧ t1 + 4% の場合</p>									<p>t1 ≦ 19 の場合 $\theta = 7^\circ$ $\theta \geq 45^\circ$ t1 > 19 の場合 $\theta = 9^\circ$ $\theta \geq 35^\circ$</p>																																																								
13		L型突合せ溶接	14		L型突合せ溶接	15		K型突合せ溶接	16		L型突合せ溶接	17			18																																																								
<p>t1 ≦ 19 の場合 $\theta = 7^\circ$ $\theta \geq 45^\circ$ t1 > 19 の場合 $\theta = 9^\circ$ $\theta \geq 35^\circ$</p>																																																																							
19		フレア-L型グループ溶接	21		フレア-X型グループ溶接	22		フレア-K型グループ溶接																																																															
			<p>添筋に依る鉄筋の継手の場合</p>			<p>鉄筋と鋼板の溶接</p>																																																																	
20		フレア-V型グループ溶接	<p>鉄筋の重ね継手の場合</p>																																																																				
			<p>(注) 片面での溶接作業が出来ない場合</p>			<p>(注) 原則として片面溶接とするが片面溶接を使用する場合は [2] 詳細に依る。</p>																																																																	

この基準図は手溶接に依る標準溶接継手の形状を示し特記なき限りこれに従う。

日建設計

(株)練馬区立美術館・真井図書館新築工事

構 21-18

溶接継手基準図

No. T-570332-

(A) 単位重量試験

(1) 供試材のとり方

a) 1本の重量を測定する場合

同一形状、寸法のものを1ロールごとに長さ0.5m以上のものを1個を採取する。
コイルの場合は、常温できょう正して供試する。

b) 1組の重量を測定する場合

同一形状、寸法のものを1以上を1組として採取する。ただし、1に相当する本数が10本に満たない場合は、10本以上採取し1組とする。

(2) 重量許容差の算出方法

$$\text{重量許容差} = \frac{(\text{計算重量} - \text{実測重量})}{\text{計算重量}} \times 100$$

$$\text{計算重量} = \text{表5に示す単位重量} \times \text{長さ}$$

(3) 合格基準

上記で算出した重量許容差が表8、表9の許容差以内

例) 1ロールとは同一圧延機による同一寸法、同一形状の棒鋼を同一圧延時に圧延したものをいう。

表5 寸法・重量及びよしの許容限度

呼び名	公称直径 (D) mm	公称直径 (D) cm	公称断面積 (S) cm ²	単位重量 kg/m	よしの平均寸法の最大値 mm	よしの高さ 最小値 mm	よしの高さ 最大値 mm	よしの寸法の最大値 mm
D 6	6.35	2.0	0.3167	0.219	4.4	0.3	0.6	5.0
D 10	9.53	3.0	0.7133	0.500	6.7	0.4	0.8	7.5
D 13	12.7	4.0	1.267	0.995	8.9	0.5	1.0	10.0
D 16	15.9	5.0	1.966	1.56	11.1	0.7	1.4	12.5
D 19	19.1	6.0	2.865	2.25	13.4	1.0	2.0	15.0
D 22	22.2	7.0	3.871	3.04	15.5	1.1	2.2	17.5
D 25	25.4	8.0	5.067	3.98	17.8	1.3	2.6	20.0
D 29	28.6	9.0	6.451	5.04	20.0	1.4	2.8	22.5
D 32	31.8	10.0	7.932	6.23	22.3	1.6	3.2	25.0
D 35	34.9	11.0	9.566	7.51	24.4	1.7	3.4	27.5
D 38	38.1	12.0	11.40	8.95	26.7	1.9	3.8	30.0
D 41	41.3	13.0	13.40	10.5	28.9	2.1	4.2	32.5
D 51	50.8	16.0	20.27	15.9	35.6	2.5	5.0	40.0

備考 1. 表5の数字の算出方法は、次のとおりとする。
公称断面積 (S) = $\frac{0.7854 \times d^2}{100}$: d でない数字の上位から4けたに丸める。
公称直径 (D) = $0.3142 \times d$: 小数点以下1けたに丸める。
単位重量 = $0.7854 \times S$: d でない数字の上位から3けたに丸める。
よしの寸法: 7.2.4による算出値を小数点以下1けたに丸める。
よしの高さ: 7.2.5による算出値を小数点以下1けたに丸める。
よしの寸法の最大値: 7.2.6による算出値を小数点以下1けたに丸める。
よしの高さ: 7.2.6による算出値を小数点以下1けたに丸める。
2. 断面形状は、断面形状の大きい形状のものとしなければならない。

表8 1本の重量の許容差

寸法	許容差
呼び名 D10未満	+調整しない、-15%
呼び名 D10以上 D16未満	±7%
呼び名 D16以上 D29未満	±5%
呼び名 D29以上	±4%

表9 1組の重量の許容差

寸法	許容差
呼び名 D10未満	±7%
呼び名 D10以上 D16未満	±5%
呼び名 D16以上 D29未満	±4%
呼び名 D29以上	±3.5%

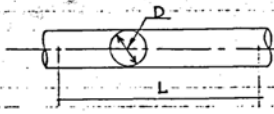
(B) 引張試験

(1) 試験片

試験片は圧延のままとし、機械仕上げは行わない。

D 22以下 JIS-Z 2201 Kによる2号試験片

D 25以上 JIS-Z 2201 Kによる3号試験片



L = 8D (2号試験片)

L = 4D (3号試験片)

(2) 試験方法

JIS-Z 2241による。(応力算定用断面積は公称断面積とする)

測定内容……降伏点または耐力、引張強さ、伸び

(3) 合格基準

表-3による機械的性質を満足すること。

表3 機械的性質

種別	記号	引張強さ (kgf/mm ²) (N/mm ²)	伸び (%)	試験片	降伏点 (%)	曲げ角度	曲げ直径	機械的性質	
								引張強さ (kgf/mm ²) (N/mm ²)	伸び (%)
1号	SR 24	24以上 (235)以上	39~53 (382~520)	2号	20以上	180°	公称直径の3倍	2号に準ずるもの	3号に準ずるもの
		30以上 (294)以上	49~63 (480~618)	3号	24以上				
2号	SR 30	30以上 (294)以上	49~63 (480~618)	2号	16以上	180°	公称直径の4倍	2号に準ずるもの	3号に準ずるもの
		35以上 (343)以上	50以上 (490)以上	3号	20以上				
1号	SD 24	24以上 (235)以上	39~53 (382~520)	2号に準ずるもの	18以上	180°	公称直径の3倍	2号に準ずるもの	3号に準ずるもの
		30以上 (294)以上	49~63 (480~618)	3号に準ずるもの	23以上				
2号	SD 30	30以上 (294)以上	49~63 (480~618)	2号に準ずるもの	16以上	180°	公称直径の4倍	2号に準ずるもの	3号に準ずるもの
		35以上 (343)以上	50以上 (490)以上	3号に準ずるもの	18以上				
3号	SD 35	35以上 (343)以上	50以上 (490)以上	2号に準ずるもの	18以上	180°	D 41以下 公称直径の4倍	2号に準ずるもの	3号に準ずるもの
		40以上 (397)以上	57以上 (557)以上	3号に準ずるもの	20以上		D 51 公称直径の5倍		
4号	SD 40	40以上 (397)以上	57以上 (557)以上	2号に準ずるもの	16以上	180°	公称直径の5倍	2号に準ずるもの	3号に準ずるもの
		50以上 (490)以上	63以上 (618)以上	3号に準ずるもの	18以上				
5号	SD 50	50以上 (490)以上	63以上 (618)以上	2号に準ずるもの	12以上	90°	D 25以下 公称直径の5倍	2号に準ずるもの	3号に準ずるもの
				3号に準ずるもの	14以上		D 25を超えらるもの 公称直径の6倍		

注 (1) 耐力は、永久伸び0.2%で測定するものとする。

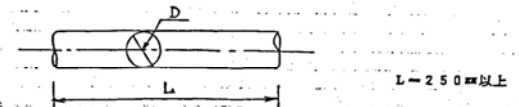
(2) 断面形状は、寸法が呼び名 D 22を超えるものについては、呼び名 D 22を準ずるものと表3の呼び名からそれぞれ2%減する。ただし、降伏点強度は4%とする。

備考 1. 試験片を示してある単位及び断面積は、SIによるものであって、参考として併記したものである。なお、1N/mm²=1MPaである。

(C) 曲げ試験

(1) 試験片

JIS-Z 2204の2号とする。但し圧延のままとする。



(2) 試験方法

JIS Z 2248による。

曲げ角度は180°とする。曲げ直径は (SD 30, SD 35は4D SE 40は5D) とする。

(3) 合格基準

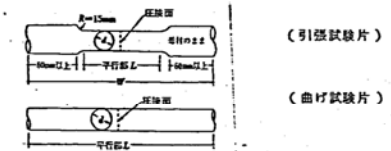
外側にき裂を生じない。

(D) 圧接性試験

各メーカー作製の「圧接方法に関する要領書」による圧接を前提とする。

(1) 試験片

引張および曲げ試験片の形状、寸法は下表に示す寸法に仕上げる。



試験片径 (呼び名)	平行部の寸法 φ	平行部の長さ L		試験片全長 W	曲げ直径 2r
		引張試験	曲げ試験		
D 32	25 ± 0.1	225	350	600	100
D 29	23 ± 0.1	205	350	600	100
D 25	20 ± 0.1	180	300	500	80
D 22	17 ± 0.1	150	300	500	68
D 19	15 ± 0.1	135	300	500	60

(JIS Z 2201 2号)

(44)

(2) 試験方法

引張試験 JIS Z 2241による。

曲げ試験 JIS Z 2248 曲げ法により曲げ角度は170度以上

(3) 合格基準

試験片全数がつぎの条件を満足した場合合格とする。

引張試験片……切断箇所が圧接面以外であつて引張強さが50kg/mm²以上。

曲げ試験片……圧接面で破断または3mmを超えるわれを生じない。

(4) 再試験

一回に限り再試験を行うことができる。

但し 圧接性試験は品質がSD 35で径がD 19~D 32の範囲を想定している。

この範囲外の場合は担当者の指示による。

82.5.12.16
10.3.30

日建設計

(株)練馬区立美術館・貫井図書館新築工事

21-19

異形鉄筋材料試験標準仕様

No T 570332

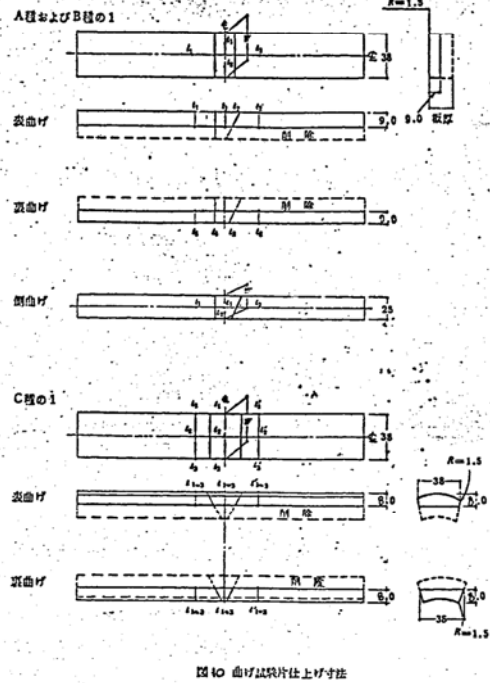


図4 面打し試験片仕上げ寸法

(10)

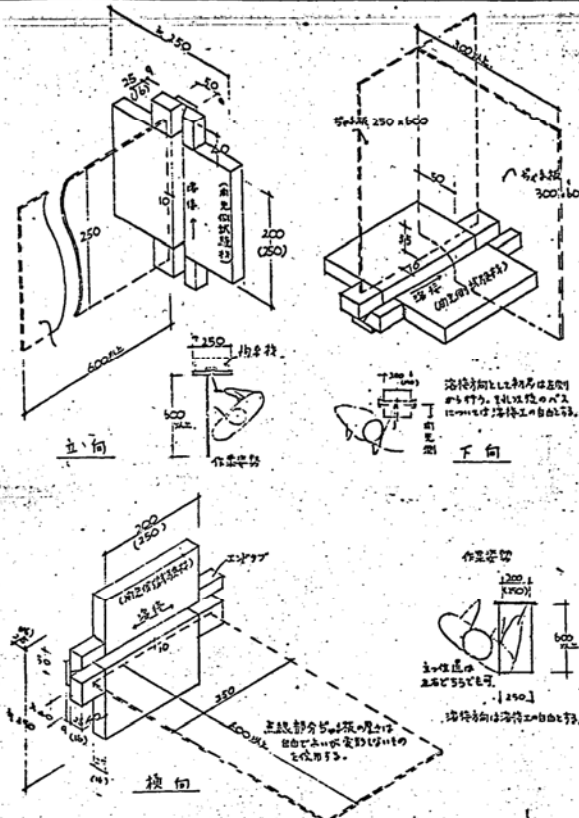


図5 A種 溶接作業説明図

(11)

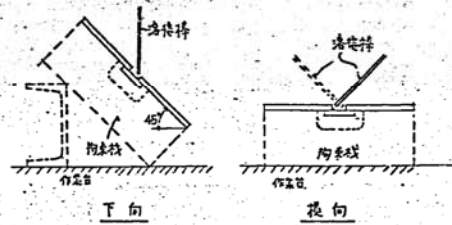


図6 B種の1 溶接作業説明図

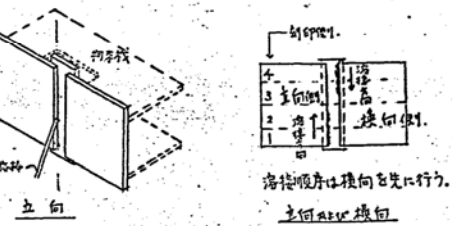


図7 B種の2 溶接作業説明図

(12)

受験者名簿 会社名 (日建建設工業) 表

受験番号	氏名	生年月日	経歴年数	資格	取得年月日
(M-1)	(甲野 太郎)	(昭和10.10.10)	(15)	(A-2P, Y, O) (SA-3P, 3H)	(S52.10.10) (S51.10.2)

(注) 次頁K資格免許の写しと過去1年間の当該工場での作業履歴を添付する。

(13)

付-2 (飯田橋ビル) 鉄骨工事溶接工技量付加試験結果一覧表 (1977.10.04)

鉄骨加工業者 (日建建設工業) 担当名

受験科目	部材種別	部材姿勢	部材規格	材種
(A-2)	(CO ₂)	(横向)	(DWS3A 1.6φ)	(SS41 t=25)
(B-1)	(手)	(横向, 立向)	(B10 4φ)	(SS41 t=9)

No.	溶接工氏名	(A種の2)						(B種の1)						総合	備考	
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6			
1	(鈴木 山崎)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合	不合格
2	(千島 逸夫)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合	合格
3	(堀沢 辰吉)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合	合格
4	(中島 貞雄)	×	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	合	不合格
5	(細水 孝)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合	合格
6	(中山 隆)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	合	合格

日建設計 (OO)

(OO) 建設部

(14)

付-5 A種の2 L形実合せ溶接試験記録 受験番号 氏名

有	1	2	3	4	5	6	外観	合格
定								

A) 溶接作業 試験年月日 試験場所

層数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

余高 ~ 部材所要時間 分
溶接作業モード外観に対する所見 初層高 仕上高 その他

B) 試験結果 試験年月日 試験員 記録員

No.	溶接不良		No.	溶接不良	
	スタブ溶込	ブローホール		スタブ溶込	ブローホール
1	ワレ	ワレ	6	ワレ	ワレ
2	ワレ	ワレ	5	ワレ	ワレ
3	ワレ	ワレ	4	ワレ	ワレ
X	1層 2層スタブ溶込 溶込不良 3層 溶込	ワレ	外観	ワレ	ワレ

(注) 本表のあとに写真を添付すること。

(17)

試験片の仕上寸法一覧表

A種

受験番号	試験片番号	試験片仕上寸法表	試験片番号
(M-1)	No. 2	W 部材 t ₁ t ₂	No. 4
	No. 3	W 部材 t ₁ t ₂	No. 5

B種の1

受験番号	試験片番号	試験片仕上寸法表	試験片番号
(M-1)	No. 2	W 部材 t ₁ t ₂	No. 3

C種の1

受験番号	試験片番号	試験片仕上寸法表	試験片番号
(M-1)	No. 2	W 部材 t ₁ t ₂	No. 6
	No. 3	W 部材 t ₁ t ₂	No. 7
	No. 4	W 部材 t ₁ t ₂	No. 8

付-6 B種の1 すみ内溶接試験記録 受験番号 氏名

有	1	2	3	4	外観	合格
定						

A) 溶接作業 試験年月日 試験場所

アーク電圧 A アーク電圧 V
初層のみの溶接棒使用量 cm 所要時間 分

B) 試験結果 試験年月日 試験員 記録員

No.	溶接不良		No.	溶接不良	
	ワレ	溶込不良		ワレ	溶込不良
1	ワレ <td>溶込不良 <td>4</td> <td>ワレ <td>溶込不良 </td></td></td>	溶込不良 <td>4</td> <td>ワレ <td>溶込不良 </td></td>	4	ワレ <td>溶込不良 </td>	溶込不良
2	ワレ <td>溶込不良 <td>3</td> <td>ワレ <td>溶込不良 </td></td></td>	溶込不良 <td>3</td> <td>ワレ <td>溶込不良 </td></td>	3	ワレ <td>溶込不良 </td>	溶込不良

C) 各試験片の写真を下付

(18)

竣工	58.12.16
竣工	60.3.30

日建設計

東京都練馬区立美術館・貫井図書館新築工事

21-21

溶接工技量検定付加試験仕様 (2) No. T-570332-